プラーマングラングを開発しませんが、	番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
1.3   アクラービー   1.3   1.7		<u>品名</u> アウレオバシジウム培養液	別名		黒酵母 (Aureobasidium pullulans) の培養液よ		Aureobasidium cultured
## 2000 1997 1997 1997 1997 1997 1997 1997 1							solution
### 1995   199	2	<u>う。)</u> アガラーゼ			*	酵素	Agarase
1. 1	3	アクチニジン					Actinidin
1	4	(アグロバクテリウムの培養液から得られた、	スクシノグリカン		*	増粘安定剤	
マース・スクライン   マース・スクライン   マース・スクライン   スクライン			, , , , , , , , , , ,	1 - 1 - 1 - 1			
P - マブム/マボック   P - マズム/マボック   P - マズム/マズン/P - マズム/マズン/P - P - P - P - P - P - P - P - P - P -	6	アスコルビン酸オキシダーゼ	ダーゼ		*	酵素	Ascorbate Uxidase
1	7	L-アスパラギン		アスパラギン	*		L-Asparagine
1				アスパラギン酸		調味料	<u>'</u>
1	9	(アスペルギルステレウスの培養液から得られ	ムタステイン		*	製造用剤	
10 - アデニル酸   アデンシン	10	α-アセトラクタートデカルボキシラーゼ		リアーゼ	*	酵素	
イングーの音を発音を向き入れた。	11	5'-アデニル酸	アデノシン5'リン酸			強化剤	5'-Adenylic Acid
アナトー電影(ビキシン)   アナトーでは、シード・(ビキシン)   アナトーでは、アナン・ドゥード   アナン・ドゥード   アナン・ドゥードゥ	12	(ベニノキの種子の被覆物から得られた、ノルビキシン及びビキシンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素	種子の被覆物より、熱時油脂若しくはプロピレン グリコールで抽出して得られたもの、室温時へキ サン若しくはアセトンで抽出し、溶媒を除去し出 得られたもの、又は熱時アルカル性水溶液で抽出し、加水分解し、中和して得られたものである。 黄色 主色素はビキシン及びノルビキシンである。 黄色		Annatto Extract
7 マン・アース		アナトー色素(ノルビキシン)	ノルビキシン		*		
「アクロボータン共和した、多種所を主席分と   「アルマニュー   「アルマニュー   「アルマニュー   「アルマニュー   「アルマニュー   「アルマニュー   「アルマニュー   「アルマニュー   「アルマニュー   「アルズー		アナトー色素(ビキシン)	ビキシン	アナトー(ビキシン)	*	]	
14   アメイフチザーゼ   一次・	13	(アマの種子から得られた、多糖類を主成分と		アマシード	子の胚乳部分より、室温時~温時水又は含水アルコールで抽出して得られたものである。主成分は		
1	14	アミノペプチダーゼ				酵素	Aminopeptidase
16 日   アネラーゼ   アネラーゼ   ※	15	α-アミラーゼ			*	酵素	α-Amylase
17   1-77 = ソーター	16	β-アミラーゼ	63分解酵素	アミラーゼ	*	酵素	β-Amylase
# 18 7 P L P 7 J A 7 D P L P T J A 7 D P L P T J A 7 D P L P T J A 7 D P L P T J A 7 D P	17	L-アラニン			*		L-Alanine
(アカンアの分泌液から得われた、多種競生主		L-アラニン液			*	強化剤	L-Alanine Solution
図かするものをいう。	18		アカシアガム	アカシア	*	増粘安定剤	
MITT. X I X 2 から の		成分とするものをいう。)					Acacia Gum
20   エアルギンシ   アルギニン   ※   回転料   L-Arabinose   L-Arginine   Method   Met	19	アラヒノカラクタン			NUTT.) 又はその他同属植物の根又は幹より、室温時水で抽出して得られたものである。成分は多糖類(構成糖はガラクトース、アラビノース等)		Arabino galactan
20	20	L-アラビノース		アラビノース		甘味料	L-Arabinose
22 アルチン酸   異数数質物   ※ 解数変更利   Alginic Acid   23 アルチン酸   野素   Alginic Acid   24 アルミコウム   ※   野素   Alginic Acid   25 アントンアナゼ   ※   野素   Alginic Acid   26 アントンアナゼ   ※   野素   Alginic Acid   26 アントンアナゼ   ※   野素   Alginic Acid   27 インアルファー音は数   ※   野素   Isosayisase   27 インアルファー音は数   ※   野素   Isosayisase   27 インアルファー音は数   ※   野素   Isosayisase   28 インアルファー音は数   ※   野素   Isosayisase   27 インアルファー音は数   ※   野素   Isosayisase   28 インアルファーゼ   ※   Faculty # Canada   ※   Faculty # Faculty # Canada   ※   Faculty #	21	L-アルギニン		アルギニン	*		L-Arginine
24   アルミニウム   アルミ末   アルミ末   アルミアナーゼ   深   所来   Anthrocyanase   Anthrocyan	22	アルギン酸	昆布類粘質物		*		Alginic Acid
25							
26			アルミ末				
2			4+ lm () =				-
ボップの花から得られた、イソフルロン類を   接乗   Isonal todextranse   ISOna				±→			·
29	21	(ホップの花から得られた、イソフムロン類を	イソアルファ一酸	ボツノ	*	古味科寺	Iso-α-bitter Acid
(イネの茎又は葉の灰化物から抽出して得られた をいう。)		イソマルトデキストラナーゼ					
31	29	(イネの茎又は葉の灰化物から抽出して得られ	ワラ灰抽出物	植物灰抽出物	灰化したものより、室温時水で抽出して得られた ものであって、アルカリ金属及びアルカリ土類金		Rice straw ash extract
料サトウダイコン (Beta vulgaris Linne   var.rang DMMRTIED) の糖液又は糖素より、分離して得られたものである。成分はイノシトールである。 成分はイノシトールである。 なんないのである。 成分はイノシトールである。 なんないのである。 成分はであるのをいう。)							
32	31	イノントール	イノンツト		科 サ ト ウ ダ イ コ ン ( <u>Beta vulgaris</u> LINNE var. <u>rapa DUMORTIER</u> ) の糖液又は糖蜜より、分離して得られたものである。成分はイノシトールである。		Inositoi
シュークラーゼ   スクラーゼ   スクラーゼ   スクラーゼ   スクラーゼ   スクラーゼ   カェラン多糖類   地帯安定剤   ボール・シーク   カーン   カージー   カーン	32	-				酵素	<u> </u>
33 ウェランガム (アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類 (アンカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	32	12 W 2 C	シュークラーゼ			お水	Invol Laso
(ウコンの根茎から得られた、クルクミンを主 成分とするものをいう。)       (ウルシロウ (ウルシの果実から得られた、グリセリンパル ミタートを主成分とするものをいう。)       ※       ガムベース 光沢剤       ガムベース 光沢剤         36 ウレアーゼ 37 エキソマルトテトラオヒドロラーゼ 38 エステラーゼ 39 エレミ樹脂 (エレミの分泌液から得られた、β-アミリンを 主成分とするものをいう。)       64生成酵素       アミラーゼ カルボヒドラーゼ       ※       酵素       Exomal totetraohydrolase         40 塩水湖水に塩化ナトリウム液 (塩水湖水に塩化ナトリウムを析出分離して 令屋は類を主成分とするものをいう。)       塩水湖水ミネラル液       ※       増粘安定剤 ガムベース       Elemi Resin ガムベース         41 オゾケライト       セレシン       ワックスシュールの鉱脈に含まれるロウを精製し たものである。主成分はC29~C53の炭化水素であ る。主成分はC29~C53の炭化水素であ       ガムベース       Ozokerite		(アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ウェラン多糖類	<u></u>			
(ウルシの果実から得られた、グリセリンパル ミタートを主成分とするものをいう。)       アミダーゼ       ※       酵素       Urease         37       エキソマルトテトラオヒドロラーゼ       64生成酵素       アミラーゼ カルポヒドラーゼ       ※       酵素       Exomaltotetraohydrolase         38       エステラーゼ       ※       酵素       Esterase         39       エレミ樹脂 (エレミの分泌液から得られた、β-アミリンを 主成分とするものをいう。)       ※       増粘安定剤 ガムベース       Elemi Resin ガムベース         40       塩水湖水低塩化ナトリウム液 (塩水湖水の塩化ナトリウムを析出分離して 滑られた、アルカリ金属塩類及びアルカリ土類 金属塩類を主成分とするものをいう。)       塩水湖水ミネラル液 (塩水湖水の塩化ナトリウムを析出分離して 滑られた、アルカリ金属塩類及びアルカリ土類 金属塩類を主成分とするものをいう。)       ※       30colum Chloride-decrease Brine (Saline Lake)         41       オプケライト       セレシン       ワックスシュールの鉱脈に含まれるロウを精製し たものである。主成分はC29~C53の炭化水素であ る。主成分はC29~C53の炭化水素であ       02cokerite		(ウコンの根茎から得られた、クルクミンを主成分とするものをいう。)		·/ 1 /			Oleoresin Curcumin
37 エキソマルトテトラオヒドロラーゼ     64生成酵素     アミラーゼ カルポヒドラーゼ     ※     酵素     Exomal totetraohydrolase       38 エステラーゼ     ※     酵素     Esterase       39 エレミ樹脂 (エレミの分泌液から得られた、β-アミリンを 主成分とするものをいう。)     ※     増粘安定剤 ガムペース     ガムペース       40 塩水湖水低塩化ナトリウム液 (塩水湖水から塩化ナトリウムを析出分離して 得られた、アルカリ金属塩類及びアルカリ土類 金属塩類を主成分とするものをいう。)     ※     30dium Chloride-decrease Brine (Saline Lake)       41 オゾケライト     セレシン     ワックスシュールの鉱脈に含まれるロウを精製し たものである。主成分はC29~C53の炭化水素である。     ガムベース     0zokerite		(ウルシの果実から得られた、グリセリンパル ミタートを主成分とするものをいう。)				光沢剤	
カルボヒドラーゼ			G4生成酵素				
39			47.1次时末				-
40 塩水湖水低塩化ナトリウム液 (塩水湖水から塩化ナトリウムを析出分離して得られた、アルカリ金属塩類及びアルカリ土類金属塩類を主成分とするものをいう。)       塩水湖水ミネラル液       ※       調味料       Sodium Chloride-decrease Brine (Saline Lake)         41 オゾケライト       セレシン       ワックスシュールの鉱脈に含まれるロウを精製したものである。主成分はC29~C53の炭化水素である。       ガムベースのZokerite		エレミ樹脂 (エレミの分泌液から得られた、β-アミリンを				増粘安定剤	
41   オゾケライト   セレシン   ワックスシュールの鉱脈に含まれるロウを精製し   ガムベース   t ものである。主成分はC29~C53の炭化水素である。	40	塩水湖水低塩化ナトリウム液 (塩水湖水から塩化ナトリウムを析出分離して 得られた、アルカリ金属塩類及びアルカリ土類		塩水湖水ミネラル液	*	調味料	Sodium Chloride-decreased Brine (Saline Lake)
	41		セレシン		たものである。主成分はC29~C53の炭化水素であ	ガムベース	Ozokerite
Y	42	オゾン			0 <sub>3</sub>	製造用剤	0zone

1

19	番号	品 名		簡略名又は類別名	甘區、制建、卡屬	H >>	備考
### 1997 / 1997			別名		基原・製法・本質	用途	***
# 1	43	オリコカラグチュロン酸			ろ過して得られたものであって、ガラクチュロン	<b>桜垣</b> 用剤	Uligogalacturonic acid
(日本の大型はおりません) 1	44	ν- <b>ナ</b> リザノール		オリザノール	酸の1~9量体の混合物からなる。	酸化防止剂	r-Oryzanol
A	44	/- オリッノール (米ぬか又は胚芽油から得られた、ステロールと		3 9 9 2 - 70	*	政心则亚州	7 -01 yzanot
プレグラグ   ブレグラグ   ブレグ							
この							
### 2000 100 100 100 100 100 100 100 100 10	45					製造用剤	Oregano extract
1							
Control					分としてチモール及びカルバクロールを含む。		
Control	46	オルンジ色素		カロチノイド	ミカン科アフダイダイ (Citrus sinansis	差色料	Orange colour
### 100   100	40	(アマダイダイの果実又は果皮から得られた、		カロチノイド色素	OSBECK) の果実又は果皮より、搾汁したもの、又		orange corour
本名を開始					は熱時エタノール、ヘキサン若しくはアセトンで		
日		07 £ (· 7 ° )			色素はβ-クリプトキサンチンの脂肪酸エステル		
(					I .		
株子はおかまえものましょう  日本	47						Seaweed ash extract
20		ムを主成分とするものをいう。)			る。		
( 方かかの書からもちられ、アントンアニン	-						
10		(カカオの種子から得られた、アントシアニン	ココノビボ	フラボノイド	~	A C **	04040 00101
20				フラボノイド色素 単宝色表	1%	善色 料	Jananese Persimmon Colour
20 日本	30	(カキの果実から得られた、フラボノイドを主		フラボノイド	~	A C **	dapanese rensminion dorour
カーンドルム	51	<u>成分とするものをいう。)</u> 花こう斑岩		<u>フラボノイド色素</u> 麦飯石	   花こう斑岩を洗浄。粉砕したものを、乾燥後、減	製造用剤	Granite porphyry
Table 2				× ** •	南して得られたものである。	17.11.	
大学の子では、大きない。	52		<b>ハツンヤカム</b>		マス科エに人グサモトモ( <u>Cassia tora</u> LINNE)   の種子の胚乳部を、粉砕して得られたものであ	<b>增枯安定剂</b>	vassia gum
5	FO	た、多糖類を主成分とするものをいう。)		++>.# 1*	る。主成分は多糖類である。		Catalana
おきたも物育を成亡し、転送化して作られたも   万子イン   万子				/ <sup>*</sup> キンダーセ			
20 元 1	54				*	<b>妥</b> 适用剤	active Garbon
25		のをいう。)			No.	CILVE CO. To.	1
カーチン							
### (		た、多糖類を主成分とするものをいう。)		ルティ			dum dnatti
************************************	57	カテキン			ツバキ科チャ ( <u>Camellia</u> <u>sinensis</u> 0. KZE.) の茎	酸化防止剤	Catechin
(Uncaria sunita, ROMENSION) の特殊者 しくは葉 表別 (Uncaria sunita, ROMENSION) の特殊者 しくは葉 表別 (Uncaria sunita, ROMENSION) の特殊者 しくは 表別 (Uncaria sunita, ROMENSION) の							
特別して何られたもの。又は無解水を密由した					( <u>Uncaria</u> <u>gambir</u> ROXBURGH) の幹枝若しくは葉		
説、メタケール多しく自動なチルトでおして作。   であった。   ではない   ではない   であった。   ではない							
50					後、メタノール若しくは酢酸エチルで分配して得	:	
大学 ロイラ ア - ア - ア - ア - ア - ア - ア - ア - ア - ア					られたものである。成分はカテキン類である。		
製造がら得られた。 タール・アルカンを主成がと	58	カードラン		ブドウ糖多糖	*		Curdlan
大き点の担い方式						<b>製</b> 這用剤	
(コーピーの様子女は子での変から得られた。		するものをいう。)		+= />	W	++ n+ \lol 65	0.55.1(5.1
おサーフ	59			カフェイン	*	古味科寺	Galleine (Extract)
イバラブリ、キンフィヤン及び一方 ライ・ファンカー カラゲーン スポース にいって マーカン アンス・オース にいって アンス で		カフェインを主成分とするものをいう。)					
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	60					増粘安定剤	Carrageenan
##		ギノリ又はツノマタの全藻から得られた、i-カ	カラゲーナン				
加工・一ケマ藻類		ラギナン、k-カラギナン及びI-カラギナンを主	カラゲニン				
精製カラギナン   紅藻曲出物   ※   Processed Red Aleae   Processed Red Red Aleae   Processed Red Red Aleae   Processed Red Red Red Red Red Red Red Red Red R				ユーケマ	*	1	
報数カラギナン   紅葉抽出物   ※							
ユーケマ 薬末         ユーケマ ミリン科キリンサイ属 (Euchema) の企業を、乾         Powdered red algae           62 αーガラケトジダーゼ         メリピアーゼ         カルボビドラーゼ         ※         酵素         α-Galactosidase           62 βーガラケトジダーゼ         ラクターゼ         カルボビドラーゼ         ※         製造用剤         Macatosidase           63 フシ物出物 フラン物出物 イベトがの原本を含くしたするものをいう。 カラメルの様子から得られた、イソテオシア フカタメルロリ、「カラメルロ」及び「カラメルロ」及び「カラメルレス」を含くして、カラメル ・物を発験して得られたものをいう。ただし、「カラメルロ」を含くして、カラメル でもの形が入分解物、機能又は機関の食用炭水 化物に要減酸化合物を加えて熱処理して得られた。 ・大きのという。ただし、「カラメルロ」を含くして、カラメル でものかいう。ただし、「カラメルロ」を含くして、カラメル ・でものかか入分解物、機能又は機関の食用炭水 ・化物に主流域能化合物を1加えて対象理して作られた。 ・カラメルロ ・アン・カエロー (マ・ため加水分解物、機能又は機関の食用炭水 ・化物に主流域能化合物を1加えて対象理して作られた。 ・大変()         カラメル ・カラメルロ ・アン・カエロー (マ・ため加水分解物、機能又は機関の食用炭水 ・化物に主流域能化合物及とフトラーク (マ・クル合物を ・カラスルロ ・アン・カエロー (マ・クルの上の)         カラメル ・カラメル カラメル ・カラメル カラメル ・大変()         カラメル ・大変()         カラメル ・大変()         カラメル ・大変()         カラメル ・大変()         カラメル ・大変()         カラメル ・大変()         Caramel II (Sulfite ammonia caramel)           60 カーダーのビリンを主味のシン浸がら得られた。とドロ ・カルデャンプラゲーゼ ・カルデャンプラゲーゼ ・カルデャンプラゲーゼ ・カルデャンプラゲーゼ ・カーブルインスの様子の医臭を粉砕して得られた。 ・カーブル・カーブラボノイド ・カーブルイドのカーシーのでいる。 ・カーブルイドのカーシーのでいる。 ・カーブルイドのカーシーのでいる。 ・カーブルイドのカーシーのでいる。 ・カーブルイドで、カーダーのでいる。 ・カーズトのでいる。 ・カーブルイドのまたしたり、カローカスト         ※         一カスト ・カローカスト         ではたいたいのといる。 ・カローカーストビーンガム ・インゴマンの様子の医臭を粉砕し、又は溶解 ・カローカスト         スローカスト ・カローカスト         ※         関格変定剤 ・カローカスト ・カローカスト ・カローカスト ・カローカスト ・カローカスト ・カローカスト ・カローカスト         スローカスト ・カローカスト		精製カラギナン		紅藻抽出物	*	1	Purified Carrageenan
		ューケマ藻末		ユーケマ	   ミリン科キリンサイ屋(Fucheuma)の全藻を、乾	1	
3 カラシ曲比明	0.4				燥、粉砕して得られたものである。		
Clastage   マスタード抽出物   マスタード抽出物   ※ 製造用剤   ※ 製造用剤   ※ 製造用剤   ※ 製造用剤   ※ 製造用剤   ※ 関連性   ※ 対している   ※ 対してい							
マスタード抽出物   ※ 製造用剤   Mustard Extract   大きないっ。	62	β-カラクトシターセ	フクターセ	カルホヒトラーセ	*	<b>酵素</b>	
上橋で月ルを主成分とするものをいう。         カラメル         カラメル         着色料         図armel I (Plain caramel)           (4 カラメルロ」、「カラメルロ」、ない方のよれたものをいう。ただし、「カラメルロ」、ない方のメルロ」、ない方のメルロ」を除く、「カラメルロ」、ため、このをいう。ただし、「カラメルロ」を除く、「カラメルロ」を除く、「カラメルロ」を除く、「カラメルロ」を除く、「カラメルロ」を除く、「カラメルロ」を除く、「カラメルロ」でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水(物にアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルロ」で、水粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水(地間にアンモニウム化合物を加えて熱処理して場られたものをいう。ただし、「カラメルロ」を除く、「カラメルロ」を除く、「カラメルロ」で、水粉加水分解物、糖蜜又は雑類の食用皮水(地間にアンモニウム化合物を加えて熱処理して場られたものをいう。ただし、「カラメルロ」、カラメル カラメルロ カラメル カラメルロ カラメル カラメル カラメルロ カラメル カラマ (カラマガム (カラマカム (カラアカム (カーカム) (カアカム (カラアカム (カーカム) (カアカム (カーカム) (カ	63			マスタード抽出物	*	製造用剤	
64 カラメルロ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (地物を熱処理して得られたものをいう。ただ し、「カラメルロ」」であるという。 ただし、「カラメルロ」」であるという。 ただし、「カラメルロ」を強化して得られたものをいう。 ただし、「カラメルロ」であるという。 ただし、「カラメルロ」であるという。 ただしのをいう。ただし、「カラメルロ」を強化して得られたものをいう。 ただし、「カラメルロ」であるという。 でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (地物にアンモニウム化を物を加えて熱処理して 得られたものをいう。ただし、「カラメルロ」 を強く」 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (地物にアンモニウム化を物を加えて熱処理して 得られたものをいう。ただし、「カラメルロ」 を強く」 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん形の理して得られたものをいう。) カラメル (で、カカンドロウンので、カランル (カラマンは中、ナラマンので、クラボンという。) カルナラバロウ (カラン・ローク) カルナラバロウ (カーク) カルナラバロウ (カーク) カルナラバロウ (カーク) カロブシャーム ラーボンイに イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られた カロブシャーム ラーボンイド色素 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られた カロブシャーム ラーボンイド色素 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕し、又は溶解 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕し、又は溶解 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕し、又は溶解 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕し、又は溶解 (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解 (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解 (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解 (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解 (カークラコモギ和は水のをいう。) カロラコスト       ※ 増配安定剤 (名で料 (2015) (2		ン酸アリルを主成分とするものをいう。)					
化物を熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメル町」及び「カラメル町」を除く。	64	カラメルI	カラメル	カラメル色素	*		Caramel I (Plain caramel)
し、「カラメルロ」、「カラメルロ」及び「カラメルロ」を除く」カラメルロ(でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水(物に亜硫酸化合物を加えて熱処理して得られたしてものをいう。ただし、「カラメルロ(でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水(物に・でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水(物に・でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水(物に・でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水(物に・でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水(物に・でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水(物に・でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水(物に・でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水(物に・でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水(物に・でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水(物に・でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水(物に・でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水(物に・でん粉加水分解物、糖素又は糖類の食用炭水(物に・でん粉加水分解物、皮膚・皮膚・皮膚・皮膚・皮膚・皮膚・皮膚・皮膚・皮膚・皮膚・皮膚・皮膚・皮膚・皮						<b>裘</b> 這用剤	
65 カラメルII (でも物加水分解物、糖蜜又は無類の食用炭水 化物に亜硫酸化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルVI」を除 くかしてシモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルVI」を除 (でも物加水分解物、糖蜜又は無類の食用炭水 化物に丁ンギモウム化合物を加えて熱処理して 得られたものをいう。ただし、「カラメルVI」 (でも物加水分解物、糖蜜又は無類の食用炭水 化物に丁を破験化合物及びアンモニウム化合物を 加工で動処理して得られたものをいう。 (カラベル (でも効加水分解物、糖蜜又は無類の食用炭水 化物に丁を破験化合物及びアンモニウム化合物を 加工で動処理して得られたものをいう。)       カラメル カラメル (でも効加水分解物、糖蜜又は無類の食用炭水 (でも効加水分解物、糖蜜又は無類の食用炭水 (でも効加水分解物、糖蜜又は無類の食用炭水 (でも効加水分解物、糖蜜又は無類の食用炭水 (でも効加水分解物、糖蜜又は無類の食用炭水 (でも効加水分解物、糖蜜又は無類の食用炭水 (では、カカストン)       カラメル カラメル (では、カカストン)       ※       第色料 製造用剤       Caramel IV (Sulfite ammonia caramel)         67 カラマ (でもかかりのは、フラボルロ (フラジルロウヤシの薬から得られた、ヒドロ キンセロチン酸セリルを主成分とするものをい ラカルナウバロウ (フラジルロウヤシの薬から得られた、ヒドロ キンセロチン酸セリルを主成分とするものをい ラカルナウバロウ (フラジルロウヤシの薬から得られた、ヒドロ キンセロチン酸セリルを主成分とするものをい ラカルフジャー カロブシャー フラボノイド フラボノイド フラボノイド カロブシャー フラボノイド フラボノイド色素       ※       ガムベース 光沢剤 Brazil Wax       なarnauba Wax Brazil Wax         70 カルボトシベブチダーゼ       カロブシャー カロブシャー カロブシャー フラボノイド フラボノイド フラボノイド フラボノイド フラボノイド フラボノイド フラボノイド色素       ※       雑報安定剤 Carob Bean Gum Loust Bean Gum Loust Bean Gum       Carob Bean Gum Loust Bean Gum       Mpで料 Rumput Roman Extract         73 カワラヨモギ御上で製造して得られたものをいう。)       カワラヨモギ油出物 (クナラヨモギの全薬から得られたものをいう。)       カワラヨモギ油出物 人のフラヨモギの全薬から得られた。カビリン       カワラヨモギ油出物 人のフラヨモギの全薬から得られた。カビリン       Mpで料 Rumput Roman Extract		し、「カラメルⅡ」、「カラメルⅢ」及び「カ				1	
(でん粉加水分解物、糖蜜又は離類の食用放水 化物に三葉硫酸化合物を加えて熱処理して (でん粉加水分解物、糖蜜又は種類の食用放水 (化物にアンモニウム化合物を加えて熱処理して 得られたものをいう。ただし、「カラメルV」 表験(と)         カラメル (大の粉加水分解物、糖蜜又は種類の食用放水 (化物にアンモニウム化合物を加えて熱処理して (大の粉加水分解物、糖蜜又は種類の食用成水 (化物に亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて熱処理して (大の粉加水分解物、糖蜜又は種類の食用成水 (化物に亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて熱処理して (力ラマルスであが理して得られたものをいう。)         カラメル (でん粉加水分解物、糖蜜又は種類の食用成水 (水間・亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。)         カラメル (大のサスで熱の理して得られたものをいう。)         カラマル (カラヤス (カラヤカ(カーケ)、ロウ (フラジルロウヤシの薬から得られた、ヒドロ キシセロチン酸 せ)ルを主成分とするものをい う。)         カルナウパワウス ブラジルワックス         ※         増粘安定剤 (カラマカス (カラマカス)         Karaya Gum (カラマカス ※ ガスペース 光沢剤         Carnauba Wax Brazil Wax 5アazil Wax 5アazil Wax 5アazil Wax 5アazil Vax 6 Prazil Vax 6 Prazil Vax 7 フラボノイド色素 7 カロブシャーム 7 カロズシャーム 7 カロズシ	65		カラメル	カラメル色素	*	着色料	CaramelII (Sulfite
たものをいう。ただし、「カラメルIV」を除く、のラグルII       カラメルIV」       オラメルII (Ammonia caramel)         (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用胶水 (特にアンモニウム化合物を加えて熱処理して (持られたものをいう。ただし、「カラメルIV」 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (セ物に亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて熱心性の (カラヤ) (カラヤカレイ) (カーナンバロウヤシの薬から得られた、ヒドロ ナン他セカチン酸とカラトの (カーナンガン (カーナンガン (カーナンガン カーナンイン (カーカンドン カーナンイン カーガン・カーガン (オーオンマンチャン・カーナンカン (オーオンマンチャン・カーナンカン (オーオンマンチャン・カーナンカン (オーオンマンチャン・カーナンカン (オーオンマン・カーナンカン (オーオンマン・カーナンカン (オーオンマン・カーナンカン (オーオンマン・カーナンカン (オーオンマン・カーカンド・カータン・カーカンド・カータン・カーカンド・カータン・カーカンド・カータン・カーカンド・カータン・カーカンド・カータン・カーカンド・カータン・カーカンド・カータン・カーカンド・カータン・カーカンド (オーオンマン・カース) (オーオンオン (オーオンマン・カース) (オーオンマン・カーカンド・カータン・カーカンド・カータン・カーカンド・カータン・カーカンド・カータン・カーカンド・カータン・カーカンド・カータン・カータン・カーカンド・カータン・カータン・カータン・カータン・カータン・カータン・カータン・カータン	"	(でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水				製造用剤	
く。)       カラメルⅢ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (や物にアンモニウム化合物を加えて熱処理して 得られたものをいう。ただし、「カラメルV」 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (かまたいの水の水の水の (カラマメレーで、カーカヤ (カーカーマンの変から得られた、と「ローカストビーンガム (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られた ものをいう。)       カラメル カラデルイド色素 カロブ カロブシャーム フラボノイド色素 ローカスト       ※       第巻色料 製造用剤       Caramel III (Ammonia caramel)         68       カラヤ (カルナウバロウ (ブラルロウンの変から得られた、カビリン       カロブ カロブシャーム フラボノイド色素 ローカスト       ※       ガムペース 光沢剤 第巻色料 製造用剤       大のをのをのをのをのをのといる ないるのでのでのでのでいた カロブシャーム フラボノイド色素 ローカスト       ※       種格のでいた 第巻色料 したい水砂での種子の胚乳を粉砕し、又は溶解 したが発して得られたものをいう。)       ローカストビーンガム いのは Bean Gum しのは Bean Gum いのフラヨモギ油は物 り、カワラヨモギ油は物 の、カワラヨモギ油は物 の、カワラヨモギ油は物 の、カワラヨモギ油は物 の、カワラヨモギ油の含薬がら得られた。カビリン       Manual Extract       様存料       Rumput Roman Extract							
(でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用胶水 化物にアンモニウム化合物を加えて熱処理して 得られたものをいう。ただし、「カラメルIV」         カラメルIV (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (でん物加水分解物、糖蜜又は糖類の食用皮水 (カラマメローシーのという)         カラメル (本araya Gum (カーナウバワックス カルナウバワックス カルナウバワックス カルナウバワックス カープシル ロックス カープシル ロックス カロブシャーム フラボノイド ものをいう。)         第素 (本rboxypeptidase           70         カロブラボノイド カロブシャーム フラボノイド ものをいう。)         ※         第を料 製造用剤 (本rbox Germ Color (マイナゴマメの種子の胚芽を粉砕し、又は溶解 (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、フは溶解 (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、フは溶解 (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、フは溶解 (大変して得られたものをいう。)         ローカストピーンガム フラボノイド色素 ローカスト         ※         増粘安定剤 (Arob Bean Gum Locust Bean Gum Locust Bean Gum Locust Bean Gum Locust Bean Gum Docust Bean Gum (カワラヨモギの全薬から得られた、カピリン         ※         (Arob Bean Gum Locust Bean Gum Locust Bean Gum         (Arob Bean Extract           73         カワラヨモギの全薬から得られた、カピリン         カワラヨモギの全薬から得られた、カピリン         ※         (Arob Bean Gum Locust Bean Gum         (Arob Bea		<.)		1 = 1   4 =	lw	<b>学</b>	Consens I W. (Assessing
<ul> <li>化物にアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメル図」を除く」カラメル図のでの参加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。カラヤがムのカラマ以はキバナワタモドキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。カラヤが、(カラヤガムで)カルナウパロウックスでは、大き、カラマンはしたの変更があら得られた、というのカルナウパロウックスでは、カーマンは、カーマンは、カーマンのでは、カーマンが、カーマンが、カーマンが、カーマンが、カーブラジルロウヤンの葉から得られた、ヒドロインが、カーブラジルロウヤンの葉から得られた、ヒドロインが、カーブラジルロウヤンの葉から得られた、ヒドロインが、カーブラジルロウヤンの葉がら得られた、カーブラジルワックスでは、カーブラジルロウヤンのでは、カーブラジルワックスを表して、カーブラジルワックスを表し、カーブラジルロウヤンのでは、カーブラジルロウヤンのでは、カーブジャーム、カーブジャーム、カーブジャーム、フラボノイドを表し、カーブジャーム、フラボノイドカー・カーブが、カーブジャーム、フラボノイドカー・カーブが、カーブジャーム、フラボノイドカー・カーブが、カーブジャーム、フラボノイドカー・カーブが、クラボノイドカー・カーブ・カーブ・カーブ・カーブ・カーブ・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・</li></ul>	66		<b>ルフメル</b>	<b>リフメル色素</b>	**		
を除く。)       カラメルマ       ボラメルマ       ボラメル (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。)       ボラマガム (カラヤガム (カラヤガム)       ボロスで熱処理して得られたものをいう。)       ボロスで熱処理して得られたものをいう。)       ボロスで表している。       ボロスで表している。       ボロスで表している。       ボロスでよっている。       ボロスでは、ボロ		化物にアンモニウム化合物を加えて熱処理して				~~////3	
67 カラメルV (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水 (地物に亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を カラヤガム (カラヤ又はキバナワタモドキの分泌液から得られた、を糖類を主成分とするものをいう。)       カラヤ (カラヤスはキバナワタモドキの分泌液から得られた、とドロ られた、多糖類を主成分とするものをいう。)       カルナウパロウ (ブラジルロウヤシの薬から得られた、ヒドロ キシセロチン酸セリルを主成分とするものをい う。)       カルナウパワックス ブラジルワックス       ※       ガムベース 光沢剤 日本会 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られた ものをいう。)       本の世子の胚芽を粉砕して得られた ものをいう。)       ※       酵素 カロブ カロブジャーム フラボノイド フラボノイド色素       ※       番色料 機造用剤       Carnauba Wax Brazil Wax         72 カロブピーンガム (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解 し、次酸して得られたものをいう。)       カロブ カロブジャーム フラボノイド色素       ※       増粘安定剤 カロブジャーム フラボノイド色素       Carob Bean Gum Locust Bean Gum (カワラヨモギ油出物 (カワラヨモギ油出物 (カワラヨモマの全革から得られた、カピリン       カワラヨモギ       ※       保存料       Rumput Roman Extract		を除く。)				<u> </u>	<u> </u>
化物に亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。       カラヤ       ※       増粘安定剤       Karaya Gum         68 カラヤガム (カラヤ又はキバナワタモドキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)       カルナウパロウ (ブラジルロウヤシの薬から得られた、ヒドロキシ酸セリルを主成分とするものをいう。)       カルナウパロウマシの薬から得られた、ヒドロキシではセリンを主成分とするものをいう。)       ボムベース 光沢剤 Brazil Wax         70 カルボキシベブチダーゼ       ※       酵素       Carboxypeptidase         71 カロブ色素 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られたものをいう。)       カロブシャームフラボノイド色素 フラボノイド色素 2ラボノイド色素 2ラボノイド色素 2ラボノイド色素 2ラボノイド色素 2ラボノイド色素 2ラボノイド色素 2フラボノイド色素 2フラボノイドの表 2フラボノイドの素 2フラボノイドの素 2ファッカスト	67	カラメルⅣ	カラメル	カラメル色素	*		
加えて熱処理して得られたものをいう。     カラヤ     ※     増粘安定剤     Karaya Gum       68 カラヤガム (カラヤ又はキバナワタモドキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)     カルナウバワックス (ブラジルロウヤシの薬から得られた、ヒドロ キシセロチン酸セリルを主成分とするものをいう。)     カルボウバワックス ブラジルワックス     ※     ガムベース 光沢剤     Brazil Wax       70 カルボキシベブチダーゼ     ※     酵素     Carboxypeptidase       71 カロブ色素 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られた ものをいう。)     カロブシャーム フラボノイド フラボノイド色素     ※     着色料 製造用剤     製造用剤       72 カロブビーンガム (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解 し、溶酸して得られたものをいう。)     ローカストピーンガム ローカスト     ローカスト     ※     増粘安定剤 しのuts Bean Gum Locust Bean Gum						製造用剤	caramel)
(カラヤ又はキバナワタモドキの分泌液から得られた、を糖類を主成分とするものをいう。)       カルナウパロウ       ガムベース 光沢剤       ガムベース 光沢剤 Brazil Wax Brazi	60	加えて熱処理して得られたものをいう。		カラヤ	  %	番 中 中 中 句	Karaya Gum
られた、多糖種を主成分とするものをいう。)       (クラジルロウヤシの葉から得られた、ヒドロキシセロチン酸セリルを主成分とするものをいう。)       カルナウパロウカー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	00	(カラヤ又はキバナワタモドキの分泌液から得		א לינו	~	垣柏女疋削	naraya uulii
(ブラジルロウヤシの葉から得られた、ヒドロ ブラジルワックス       光沢剤       Brazil Wax         キシセロチン酸セリルを主成分とするものをいう。)       プラジルワックス       ※         70 カルボキシペブチダーゼ       ※       酵素       Carboxypeptidase         71 カロブ色素 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られたものをいう。)       カロブジャーム フラボノイド 製造用剤 フラボノイド 機関油 マラボノイド 機関 ローカストピーンガム (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解し、水酸して得られたものをいう。)       ローカストピーンガム ローカスト ※       増粘安定剤 Locust Bean Gum	60	られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		植物ワックフ	1%	ガルベーフ	Carnauha Way
キシセロチン酸セリルを主成分とするものをいう。)       カロブ       ※       酵素       Carboxypeptidase         70 カルボキシペブチダーゼ       ※       着色料 製造用剤       Carob Germ Color         71 カロブビネ (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られたものをいう。)       カロブジャーム フラボノイド色素 フラボノイド色素 (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解し、沈酸して得られたものをいう。)       四ーカストビーンガム ローカスト       ※       増粘安定剤 Locust Bean Gum Locust	บฮ			1世7の ノソソ ヘ	^		
71 カロブ色素 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られた ものをいう。)       カロブジャーム フラボノイド色素       ※       着色料 製造用剤       Carob Germ Color         72 カロブビーンガム (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解 し、沈殿して得られたものをいう。)       ローカストビーンガム ローカスト       ※       増粘安定剤 Locust Bean Gum Locust Bean Gum Locust Bean Gum Locust Bean Gum Locust Bean Gum         73 カワラヨモギ部山物 (カワラョモギの全草から得られた、カピリン       カワラヨモギ       ※							
71 カロブ色素 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られた ものをいう。)       カロブジャーム フラボノイド色素       ※       着色料 製造用剤       Carob Germ Color         72 カロブピーンガム (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解 し、沈殿して得られたものをいう。)       ローカストピーンガム ローカスト       ※       増粘安定剤 しのust Bean Gum Locust Bean Gum しのいた。         73 カワラヨモギ部山物 (カワラョモギの全草から得られた、カピリン       カワラヨモギ       ※       保存料       Rumput Roman Extract	70	<u></u> カルボキシペプチダーゼ			*	酵素	Carboxypeptidase
(イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られた ものをいう。)     カロブジャーム フラボノイド フラボノイド色素     製造用剤       72 カロブピーンガム (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解 し、沈殿して得られたものをいう。)     ローカストピーンガム ローカスト     ※     増粘安定剤 Locust Bean Gum Locust Bean Gum Locust Bean Gum Locust Bean Gum       73 カワラヨモギか会草から得られた、カピリン     カワラヨモギ     ※	71						Carob Germ Color
フラボノイド色素   プラボノイド色素   増粘安定剤   Carob Bean Gum   Locust Bean Gum						製造用剤	
72 カロブピーンガム (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解 し、波酸して得られたものをいう。)     ローカストピーンガム ローカスト     W     増粘安定剤 Locust Bean Gum Locust Bean Gum Locust Bean Gum という フラヨモギ抽出物 (カワラヨモギ油出物 (カワラヨモギの全草から得られた、カピリン     AVワラヨモギ     ※     保存料     Rumput Roman Extract				フラボノイド色素			
し、沈殿して得られたものをいう。)     カワラヨモギ 抽出物     ※     保存料     Rumput Roman Extract       (カワラヨモギの全草から得られた、カピリン     ※     ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	72			ローカスト	*	増粘安定剤	
(カワラヨモギの全草から得られた、カピリン		し、沈殿して得られたものをいう。)				In de de la	
を主成分とするものをいう。	73	カワラヨモギ抽出物		カワラヨモギ	*	保存料	Rumput Roman Extract
		を主成分とするものをいう。)				l	

番号	品 名		簡略名又は類別名	基原·製法·本質	用途	備考
	<u>品名</u> カンゾウ抽出物	<u>別名</u> カンゾウエキス	カンゾウ	参加・安成・平見 ウラルカンゾウ(Glycyrrhiza uralensis	甘味料	Licorice Extract
'-'	(ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウ	グリチルリチン	カンゾウ甘味料	Fischer)、チョウカカンゾウ(Glycyrrhiza		E1001100 Extraot
	カンゾウの根又は根茎から得られた、グリチル リチン酸を主成分とするものをいう。)	リコリス抽出物	リコリス	inflata Batalin )、ヨウカンゾウ (Glycyrrhiza glabra Linne)、又はそれらの近		
				縁植物の根若しくは根茎から得られた、グリチル リチン酸を主成分とするものである。本品には、		
				粗製物と精製物がある。		
	カンゾウ抽出物(粗製物)	カンゾウエキス(粗製物)		*		Licorice Extract(Crude)
		グリチルリチン (粗製物)				
		リコリス抽出物(粗製物)				
	カンゾウ抽出物(精製物)	カンゾウエキス (精製物)		*		Licorice Extract(Purified)
		グリチルリチン(精製物) リコリス抽出物(精製物)				
75	カンゾウ油性抽出物		油性カンゾウ	*	酸化防止剤	Licorice Oil Extract
	(ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウカンゾウの根又は根茎から得られた、フラボノ					
	イドを主成分とするものをいう。)					
76	カンデリラロウ	+ \ = D 6.2	植物ワックス	*	ガムベース	Candelilla Wax
/6	カンデリラロリ (カンデリラの茎から得られた、ヘントリアコ		恒物ソツクス	*	光沢剤	Candellila wax
	ンタンを主成分とするものをいう。)	キャンデリラワックス				
77	キサンタンガム (キサントモナスの培養液から得られた、多糖	キサンタン多糖類 ザンサンガム	キサンタン	*	増粘安定剤	Xanthan Gum
70	類を主成分とするものをいう。)			*	酵素	Vylanasa
	キシラナーゼ D-キシロース		キシロース	*	甘味料	Xylanase D-Xylose
	キチナーゼ		T70-X	*	酵素	Chitinase
81	キチン			エビ、カニ等甲殻類の甲殻又はイカの甲を、室温 時~温時酸性水溶液で炭酸カルシウムを除去した	<b>瑁</b> 枯女正剤	Chitin
				後、温時~熱時弱アルカル性水溶液でタンパク質 を除去したもので、N-アセチル-D-グルコサミン		
				の多量体からなる。		
	キトサナーゼ			*	酵素	Chitosanase
83	キトサン			「キチン」を、温時~熱時水酸化ナトリウム水溶液で脱アセチル化したもので、D-グルコサミンの		Chitosan
QΛ	キナ抽出物			多量体からなる。 アカネ科アカキナ ( <u>Cinchona</u> <u>succirubra</u>		Redbark cinchona extract
04	(アカキナの樹皮から得られた、キニジン、キ			PAVON)の樹皮より、水又はエタノール等で抽出	in Mart	Neubark Ciliciona extract
	ニーネ及びシンコニンを主成分とするものをい う。)			して得られたものである。有効成分はキニーネ、 キニジン及びシンコニンである。		
85	キハダ抽出物		キハダ	ミカン科キハダ (Phellodendron amurense	苦味料等	Phellodendron bark extract
	(キハダの樹皮から得られた、ベルベリンを主成分とするものをいう。)			RUPR.) の樹皮より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はベルベリンであ		
- 00		h = 1.11 1° - 1		<b>వ</b> ం		0 :11 : 5 :
86	キラヤ抽出物 (キラヤの樹皮から得られた、サポニンを主成	キラヤサポニン	サポニン	*	乳化剤	Quillaia Extract Quillaja Extract
L	分とするものをいう。)					-
87	金	金箔		<sup>197</sup> Au	着色料 製造用剤	Gold
	銀	銀箔		<sup>107</sup> Ag, <sup>109</sup> Ag	着色料	Silver
89	グァーガム (グァーの種子から得られた、多糖類を主成分	グァーフラワー	グァー	*	増粘安定剤	Guar Gum
	とするものをいう。ただし、「グァーガム酵素	7770314				
90	<u>分解物」を除く。)</u> グァーガム酵素分解物	グァーフラワー酵素分解	グァー分解物	*	増粘安定剤	Enzymatically Hydrolyzed
	(グァーの種子を粉砕し、分解して得られた、	物グァルガム酵素分解物				Guar Gum
	多糖類を主成分とするものをいう。)	ファルガム的系方牌物				
91	グアヤク脂 (ユソウボクの幹枝から得られた、グアヤコン			ハマビシ科ユソウボク ( <u>Guajacum</u> <u>officinale</u> LINNE) の幹枝を、加熱して得られたものであ	酸化防止剤	Guaiac resin
	酸、グアヤレチック酸及び $\beta$ -レジンを主成分と			る。有効成分は、グアヤコン酸、グアヤレチック		
92	<u>するものをいう。)</u> グアヤク樹脂			<u>酸及びB-レジンである。</u> ハマビシ科ユソウボク( <u>Guaiacum</u> <u>officinale</u>	ガムベース	Guajac resin (extract)
	(ユソウボクの分泌液から得られた、 $\alpha$ -グアヤコン酸及び $\beta$ -グアヤコン酸を主成分とするもの			LINNE) の分泌液を、室温時エタノールで抽出 し、ろ液からエタノールを留去して得られたもの		
	をいう。)			である。主構成成分はα-、β-グアヤコン酸であ		
93	クエルセチン	ケルセチン	ルチン分解物	6 ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° °	酸化防止剤	Quercetin
94	クチナシ青色素		クチナシ	*	着色料	Gardenia Blue
	(クチナシの果実から得られたイリドイド配糖体とタンパク質分解物の混合物にβ-グルコシ		クチナシ色素			
05	<u>ダーゼを添加して得られたものをいう。)</u> クチナシ赤色素		クチナシ	*	着色料	Gardenia Red
33	(クチナシの果実から得られたイリドイド配糖		クチナシ色素	~	油 乙杆	dai deiira iked
	体のエステル加水分解物とタンパク質分解物の 混合物に $\beta$ -グルコシダーゼを添加して得られた					
0.6	ものをいう。)		+	w	<b>辛</b> 互 40	Candania Vallam
90	クチナシ黄色素 (クチナシの果実から得られた、クロシン及び		カロチノイド カロチノイド色素	*	着色料	Gardenia Yellow
	クロセチンを主成分とするものをいう。)		カロテノイド カロテノイド色素			
			クチナシ			
			クチナシ色素 クロシン			
97	グッタハンカン (グッタハンカンの分泌液から得られた、アミ			アカテツ科グッタハンカン (Palaquium leiocarpum BOERL.) の幹枝より得られたラテッ	ガムベース	Gutta hang kang
	リンアセタート及びポリイソプレンを主成分と			クスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去したも		
	するものをいう。)			のより得られたものである。主成分はトランスポリイソプレン及びアミリンアセタートである。		
	P				1* / ^	
98	グッタペルカ (グッタペルカの分泌液から得られた、ポリイ			アカテツ科グッタペルカ (Palaquium gutta BURCK.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時	カムベース	Gutta percha
	ソプレンを主成分とするものをいう。)			水で洗浄し、水溶成分を除去したものより得られ		
				たものである。主成分はトランスポリイソプレン である。		
99	クリストバル石		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したクリストバル石を、粉砕乾燥、 800~1200℃で焼成、又は塩酸処理して焼成した	製造用剤	Cristobalite
100	ゲルカナーギ		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ものである。	群主	Glusanasa
	グルカナーゼ		カルボヒドラーゼ ヘミセルラーゼ	*	酵素	Glucanase
101	グルコアミラーゼ	糖化アミラーゼ	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	*	酵素	Glucoamylase
102	グルコサミン			*	增粘安定剤	Glucosamine
103	α-グルコシダーゼ	マルターゼ		*	製造用剤 酵素	α-Glucosidase
	β-グルコシダーゼ	ゲンチオビアーゼ		*	酵素	β-Glucosidase
	α-グルコシルトランスフェラーゼ	<u>セロビアーゼ</u> 4-α-グルカノトランス		*	酵素	α-Glucosyltransferase
100		フェラーゼ		^^	자	4-α-Glucanotransferase
1		6-α-グルカノトランス フェラーゼ				6-α-Glucanotransferase

番号	品 名		簡略名又は類別名	基原·製法·本質	用途	備考
	<u>品 名</u> α-グルコシルトランスフェラーゼ処理ステビア	別名 選表が押ステビア	ステビア	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	甘味料	α-Glucosyltransferase
100	(「ステビア抽出物」から得られた、α-グルコシルステビオシドを主成分とするものをいう。)	好来だ理へ)し)	ステビア甘味料 糖転移ステビア	·*	D 5/4-7-1	Treated Stevia
	α-グルコシルトランスフェラーゼ処理ステビ   オール配糖体	酵素処理ステビオール配 糖体		*		α-Glucosyltransferase Treated Steviol Glycosides
107	グルコースイソメラーゼ	- NA PT		*	酵素	Glucose Isomerase
108	グルコースオキシダーゼ			*	酵素	Glucose Oxidase
109	グルタミナーゼ		アミダーゼ	*	酵素	Glutaminase
110	L-グルタミン		グルタミン	*	調味料	L-Glutamine
111	グレーブフルーツ種子抽出物 (グレーブフルーツの種子から得られた、脂肪 酸及びフラボノイドを主成分とするものをい う。)		グレープフルーツ種子	ミカン科グレープフルーツ ( <u>Citrus paradisi</u> MACF) の種子より、水又はエタノールで抽出し て得られたものである。主成分は脂肪酸及びフラ ポノイドである。	強化剤 製造用剤	Grapefruit seed extract
112	クローブ抽出物 (チョウジのつぼみ、葉又は花から得られた、 オイゲノールを主成分とするものをいう。)	チョウジ抽出物	チョウジ油	フトモモ科チョウジ( <u>Syzygium aromaticum</u> MERRILL et PERRY)のつぼみ、葉又は花より、エ タノール又はアセトンで抽出して得られたもの、 又は水蒸気蒸留により得られたものである。主成 分はオイゲノール等である。	酸化防止剤	Clove extract
113	クロロフィリン		葉緑素	「クロロフィル」を、温時アルカリ性エタノール 水溶液で加水分解し、希塩酸で中和した後、含水 エタノールで抽出して得られたものである。主成 分はマグネシウムクロロフィリンである。緑色を 呈する。	着色料	Chlorophylline
114	クロロフィル		葉緑素	*	着色料	Chlorophyll
115	くん液 (サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を 燃焼して発生したガス成分を捕集し、又は乾溜 して得られたものをいう。)	スモークフレーバー	木酢液 リキッドスモーク	*	製造用剤	Smoke Flavourings
116	して得られたものをいっ。)  ケイソウ土		不溶性鉱物性物質	*	製造用剤	Diatomaceous Earth
117	ゲンチアナ抽出物 (ゲンチアナの根又は根茎から得られた、アマロゲンチン及びゲンチオピクロシドを主成分と			*	苦味料等	Gentian Root Extract
118	するものをいう。)  高級脂肪酸 (動植物性油脂又は動植物性硬化油		脂肪酸	動植物性油脂又は動植物性硬化油脂より、加水分	製造用剤	Higher Fatty Acid
	<u>脂を加水分解して得られたものをいう。)</u> 高級脂肪酸(カプリル酸 )		脂肪酸(カプリル酸)	解したものより得られたものである。 ※		Higher Fatty Acid
						(Caprylic Acid)
	高級脂肪酸(カプリン酸 )		脂肪酸(カプリン酸 )	*		Higher Fatty Acid (Capric Acid)
	高級脂肪酸(ステアリン酸 )		脂肪酸(ステアリン酸 )	*		Higher Fatty Acid (Stearic
	高級脂肪酸(パルミチン酸 )		脂肪酸(パルミチン酸 )	*		Acid) Higher Fatty Acid
	高級脂肪酸(ベヘニン酸)		脂肪酸(ベヘニン酸)			(Palmitic Acid)
				*		Higher Fatty Acid (Behenic Acid)
	高級脂肪酸(ミリスチン酸)		脂肪酸(ミリスチン酸 )	*		Higher Fatty Acid (Myristic Acid)
	高級脂肪酸(ラウリン酸 )		脂肪酸(ラウリン酸 )	*		Higher Fatty Acid (Lauric
110	  香辛料抽出物	スパイス抽出物	香辛料	  *	苦味料等	Acid) Spice Extracts
	マグーン、ステリフェチダ、アジョワン、アニス、オレーン、大い、ウィキョウ、ウコン、オールスパイストーン・オールスパイストーン・オールスパイストーン・オールスパイストーン・オールスパイストーン・オール、カショウ・カーツ・ファック・ファック・ファック・ファック・ファック・ファック・ファック・ファック		₹ <i>.</i>			
120	   酵素処理イソクエルシトリン (「ルチン酵素分解物」から得られた、α-グル コシルイソクエルシトリンを主成分とするもの をいう。)	糖転移イソクエルシトリ ン	酵素処理ルチン 糖転移ルチン	*	酸化防止剤	Enzymatically Modified Isoquercitrin
121	酵素処理ナリンジン (「ナリンジン」から得られた、α-グルコシル ナリンジンを主成分とするものをいう。)	糖転移ナリンジン	ナリンジン	「ナリンジン」とデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを付加させたものである。有効成分は $\alpha$ -グルコシルナリンジンである。		Enzymatically modified naringin

	番号	品 名		簡略名又は類別名	甘压 制汁 十所	用途	備考
1				- 0.11.10	基原·製法·本質		*** *
12	122	(「ヘスペリジン」にシクロデキストリングル コシルトランスフェラーゼを用いてグルコース		ヘスペリジン	*	強化剤	
19		酵素処理ルチン(抽出物) (「ルチン(抽出物)」から得られた、α-グル コシルルチンを主成分とするものをいう。)	糖転移ルチン(抽出物)	糖転移ルチン	*	強化剤 着色料	Rutin (Extract)
15   本書の表現の主人の企業を表現の表現である。	124	(「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から 得られた、ホスファチジルグリセロールを主成		レシチン	*	乳化剤	
# 17.1. (		酵素分解カンゾウ (「カンゾウ抽出物」を酵素分解して得られた、グリチルレチン酸-3-グルクロニドを主成分		カンゾウ	*	甘味料	
# 1	126	(リンゴの果実を酵素分解して得られた、カテ キン類及びクロロゲン酸を主成分とするものを			搾汁し、パルプを分離した後、得られた上清を酵 素処理し、精製して得られたものである。有効成		
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	127	(「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から 得られた、フォスファチジン酸及びリゾレシチ		レシチン	*	乳化剤	
19	128	酵母細胞壁 (サッカロミセスの細胞壁から得られた、多糖		酵母細胞膜	*		Yeast Cell Wall
10	129	コウリャン色素 (コウリャンの種子から得られた、アピゲニニ ジン及びルテオリニジンを主成分とするものを			*	着色料	Kaoliang Color
15   新元ののからら前られた。 選手取りソ業カル   27 前面出物	130	コチニール色素 (エンジムシから得られた、カルミン酸を主成			*	着色料	
122   日本学科が機関	131	骨炭 (ウシの骨から得られた、炭末及びリン酸カル			*	製造用剤	Bone Charcoal
(すっと葉の主意の変化物から曲もれた、パリイン) カラチョック   カスペース   カンター		ゴマ油不けん化物 (ゴマの種子から得られた、セサモリンを主成 分とするものをいう。)		ゴマ油抽出物	は種子の搾油糟より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はセサモリンである。		
(トラゴムの分泌療から得られた、ポリイソア   トラダイクサドハラゴム (Stoce Meal Hamilton)	133	(ゴマの茎又は葉の灰化物から抽出して得られ			化し、室温時水で抽出し、上澄み液をろ過して得	製造用剤	Sesame straw ash extract
155   14.9 特別的	134	ゴム (パラゴムの分泌液から得られた、ポリイソプ レンを主成分とするものをいう。ただし、「低				ガムベース	Rubber
35   コメスカ油油出物   ※	135	ゴム分解樹脂  (「ゴム」から得られた、ジテルペン、トリテ  ルペン及びテトラテルペンを主成分とするもの			MUELLARG.) の幹枝より得られるラテックス を、加熱分解したもの、又は酵素分解して得られ た低分子の樹脂状物質である。主成分はC20~C40		
137   スメカ南南分解物	136	(米ぬか油から得られた、フェルラ酸を主成分			*		Rice Bran Oil Extract
138	137	コメヌカ酵素分解物 (脱脂米ぬかから得られた、フィチン酸及びペ			られる脱脂米ぬかを酵素分解したものより、水で 抽出して得られたものである。主成分はペプチド		
133	138	(米ぬか油から得られた、リグノセリン酸ミリ		植物ワックス			Rice Bran Wax
40	139	サイリウムシードガム (ブロンドサイリウムの種皮から得られた、多	サイリウムハスク	サイリウム	*	増粘安定剤	Psyllium Seed Gum
141 サバクヨモギンードガム	140	サトウキビロウ (サトウキビの茎から得られた、パルミチン酸		植物ワックス	*	ガムベース	Cane Wax
142   微性白大ファターゼ	141	サバクヨモギシードガム (サバクヨモギの種皮から得られた、多糖類を			*		Artemisia Seed Gum
144   検索	142			不溶性鉱物性物質	*	製造用剤	Acid Clay
145 シアノコバラミン   ビタミンB <sub>12</sub>   V.B <sub>12</sub>   ※ 強化剤   Oyanocobalamin   Oyanocobalamin	143	酸性ホスファターゼ	ホスホモノエステラーゼ		*	酵素	Acid Phosphatase
146	144	酸素			02	製造用剤	0xygen
(ラックカイガラムシの分泌液から得られた、アレウリチン酸とジャラール酸のエステルを主成分とする と サック (白セラック 白 ウェラック	145	シアノコバラミン	ビタミンB <sub>12</sub>	V. B <sub>12</sub>	*	強化剤	Cyanocobalamin
シェラック (白シェラック)         セラック (白セラック)         白セラック (白セラック (精製シェラック (精製シェラック (精製シェラック (精製シェラック (精製シェラック (精製シェラック (精製シェラック (精製シェラック (精製シェラック (オ製・セラック (オ製・セラック (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、 スラ分を主成分とするものをいう。)         ※         ガムベース 光沢剤 (ランコードモナスの始養液から得られた、 多糖 (ジェードモナスの始養液から得られた、 多糖 (ジェルトンの分泌液から得られた、 アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とする (シュードモナスの分泌液から得られた、 アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とする (ランコード・ストリン (ジェルトンの分泌液から得られた、 アミリンティート及びポリイソブレンを主成分とする (ア・ストリン (ジェルトンの分泌液から得られた、 アミリン (ジェルトンの分泌液から得られた、 アミリン ナイタート及びポリイソブレンを主成分とする (ア・ストリン (ア・フィア・ストリン (ア・ストリン (ア・フィア・ストリン (ア・フィア・ストリン (ア・フィア・ストリン (ア・フィア・ストリン (ア・フィア・ストリン (粉末))))         デンプンを、酵素処理し、非還元性環状デキストリンをは用剤 (ア・ストリンである。 成分はシクロデキストリン (ア・フィア・ストリン (ア・フィア・ストリン (ア・フィア・ストリン (粉を)))         (ア・フィア・ストリン (ア・フィア・ストリン (ア・フィア・ストリン (粉を)))         (ア・フィア・ストリン (粉末))         (ア・フィア・ストリン (粉末))         (ア・フィア・ストリン (粉を))         (ア・フィア・ストリン(ア・ストリン))         (ア・フィア・ストリン(ア・ストリン))         (ア・フィア・ストリン(ア・ストリン))         (ア・フィア・ストリン(ア・ストリン))         (ア・フィア・ストリン(ア・ストリン))         (ア・フィア・ストリン(ア・ストリン))         (ア・フィア・ストリン))         (ア・フィア・ストリン(ア・ストリン))         (ア・フィア・ストリン(ア・ストリン))         (ア・フィア・ストリン(ア・ストリン))         (ア・フィア・ストリン(ア・ストリン))         (ア・フィア・ストリン(ア・ストリン))         ア・フィア・ストリン(ア・ストリン))         (ア・ストリン(ア・ストリン))	146	(ラックカイガラムシの分泌液から得られた、 アレウリチン酸とシェロール酸又はアレウリチ ン酸とジャラール酸のエステルを主成分とする					Shellac
147 シェラックロウ			セラック(白セラック)	白セラック	*		Shellac (White Shellac)
(ラックカイガラムシの分泌液から得られた、 スラ分を主成分とするものをいう。)  148 ジェランガム (シュードモナスの培養液から得られた、多糖 類を主成分とするものをいう。)  149 ジェルトン (ジェルトンの分泌液から得られた、アミリン アセタート及びポリイソブレンを主成分とする ものをいう。)  150 シクロデキストリン	1.77		ク)			121 2 -	, , ,
(シュードモナスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)       ボンチアナック       ※       ガムベース       Jelutong         149 ジェルトン (ジェルトンの分泌液から得られた、アミリン アセタート及びポリイソブレンを主成分とする ものをいう。)       ボンチアナック       ※       ガムベース       Jelutong         150 シクロデキストリン       サイクロデキストリン 環状オリゴ糖       デンプンを、酵素処理し、非還元性環状デキストリンとして得られたものである。成分はシクロデキストリンとして得られたものである。成分はシクロデキストリンである。       αーシクロデキストリン       αーサイクロデキストリン       ※         βーシクロデキストリン       βーサイクロデキストリン       ※       βーウィクロデキストリン       ※         γーシクロデキストリン       γーサイクロデキストリン       ※       βーCyclodextrin γ-Cyclodextrin         分岐シクロデキストリン (粉末品)       分岐サイクロデキストリン (粉岐サイクロデキストリン)       ※       Branched Cyclodextrin		(ラックカイガラムシの分泌液から得られた、 ろう分を主成分とするものをいう。)		·		光沢剤	
(ジェルトンの分泌液から得られた、アミリン アセタート及びポリイソプレンを主成分とする 主の多いう。)       サイクロデキストリン       環状オリゴ糖       デンプンを、酵素処理し、非還元性環状デキスト リンとして得られたものである。成分はシクロデキストリンとして得られたものである。成分はシクロデキストリンである。         αーシクロデキストリン       ※       ※         βーシクロデキストリン       ※       ※         アーシクロデキストリン       ※       ※         アーシクロデキストリン       ※       ※         分岐シクロデキストリン       ※       アーサイクロデキストリン         分岐シクロデキストリン       ※       アーウィロデキストリン         分岐シクロデキストリン       ※       アーウィロデキストリン         Branched Cyclodextrin       Branched Cyclodextrin		(シュードモナスの培養液から得られた、多糖 類を主成分とするものをいう。)		ンエフン			
	149	(ジェルトンの分泌液から得られた、アミリン アセタート及びポリイソプレンを主成分とする			×	カムペース	Jerutong
$\alpha$ ーシクロデキストリン $\alpha$ ーサイクロデキストリ $\otimes$ $\alpha$ ーシクロデキストリン $\beta$ ーサイクロデキストリン $\beta$ ーサイクロデキストリン $\otimes$ $\alpha$ ーシクロデキストリン $\otimes$ $\alpha$ ーシクロデキストリン $\otimes$ $\alpha$ ーシクロデキストリン $\otimes$ $\alpha$ 一分岐シクロデキストリン $\otimes$ $\alpha$ 一分岐サイクロデキストリン $\otimes$ $\alpha$ 一分岐サイクロデキストリン $\otimes$ $\alpha$ 一方は、	150		サイクロデキストリン	環状オリゴ糖	リンとして得られたものである。成分はシクロデ	製造用剤	Cyclodextrin
マーシクロデキストリン     アーサイクロデキストリン     ※       分岐シクロデキストリン (粉末品)     分岐サイクロデキストリ 分岐サイクロデキストリン     ※       Branched Cyclodextrin		αーシクロデキストリン	α - サイクロデキストリ			1	α-Cyclodextrin
分岐シクロデキストリン(粉末品)   分岐サイクロデキストリ   分岐サイクロデキストリン   ※ Branched Cyclodextrin		βーシクロデキストリン	ン β-サイクロデキストリ ン		*		β-Cyclodextrin
		γーシクロデキストリン	γーサイクロデキストリ 、		*	1	γ-Cyclodextrin
•		分岐シクロデキストリン(粉末品)			*		

番号	品名		簡略名又は類別名	基原·製法·本質	用途	備考
	<u>品名</u> シクロデキストリングルカノトランスフェラー	別名	トランスフェラーゼ	*	酵素	Cyclodextrin
	ゼ		シスチン	**	調味料	glucanotransferase L-Cystine
	L-シスチン		システン		強化剤	-
153	シソ抽出物 (シソの種子又は葉から得られた、テルペノイドを主成分とするものをいう。)	シソエキス		シソ科シソ (Perilla crispa TAMAKA) の種子又は葉より、酸性水溶液又は温時含水エタノールで抽出したものから得られたものである。主成分はテルペノイドである。	製造用剤	Perilla Extract
154	シタン色素 (シタンの幹枝から得られた、サンタリンを主成分とするものをいう。)	サンダルウッド色素	サンダルウッド フラボノイド フラボノイド色素	*	着色料	Sandalwood Red
155	5'-シチジル酸		5' -CMP	*	強化剤	5'-Cytidylic Acid
	ジャマイカカッシア抽出物 (ジャマイカカッシアの幹枝又は樹皮から得ら れた、クアシン及びネオクアシンを主成分とす るものをいう。)	カッシアエキス	カッシア	*	苦味料等	Jamaica Quassia Extract
	ショウガ抽出物 (ショウガの根茎から得られた、ショウガオー ル及びジンゲロールを主成分とするものをい う。)	ジンジャー抽出物	ジンジャー抽出物	ショウガ科ショウガ(Zingiber officinale ROSC.) の根茎より、室温時エタノール、アセト ン又はヘキサンで抽出して得られたものである。 主成分はジンゲロール類及びショウガオール類で ある。		Ginger extract
	焼成カルシウム (うに殻、貝殻、造礁サンゴ、ホエイ、骨又は 卵殻を焼成して得られた、カルシウム化合物を 主成分とするものをいう。)		焼成Ca		強化剤 製造用剤	Calcinated Calcium
	うに殻焼成カルシウム		うに殻カルシウム うに殻Ca	*		Calcinated Sea Urchin Shell Calcium
	貝殻焼成カルシウム		貝カルシウム 貝Ca	*		Calcinated Shell Calcium
ļ	骨焼成カルシウム	骨カルシウム	骨Ca	*		Calcinated Bone Calcium
	造礁サンゴ焼成カルシウム		コーラルカルシウム コーラルCa サンゴカルシウム	*		Calcinated Coral Calcium
	乳清焼成カルシウム	乳清第三リン酸カルシウム ホエイ第三リン酸カルシウム	乳清リン酸Ca	*		Calcinated Whey Calcium
		ホエイリン酸三カルシウ ム				
	卵殻焼成カルシウム		卵殻カルシウム 卵殻Ca	*		Calcinated Eggshell Calcium
	植物性ステロール (油糧種子から得られた、フィトステロールを主成分とするものをいう。)	フィトステロール	ステロール	油糧種子を粉砕し、抽出して得られた植物性油脂 より、室温時~温時メタノール、エタノール、イ ソプロパノール、酢酸エチル、アセトン、又はヘ キサンで抽出したものより得られたものである。 主成分はフィトステロールである。	乳化剤	Vegetable Sterol
ŀ	植物性ステロール(遊離体高濃度品)	フィトステロール(遊離		*		Vegetable Sterol(High
	植物性ステロール(遊離体低濃度品)	体高濃度品) フィトステロール(遊離		<b> </b>		Concentration Free Sterol) Vegetable Sterol(Low
160	植物炭末色素	体低濃度品)	当士		<b>着色料</b>	Concentration Free Sterol)
	恒物灰木巴茶 価物を炭化して得られた、炭素を主成分とす <u>るものをいう。)</u> 植物レシチン	炭末色素      レシチン	炭末	※ アブラナ科アブラナ (Brassica campestris)		Vegetable Carbon Black  Vegetable lecithin
101	(アブラナ又はダイズの種子から得られた、レシチンを主成分とするものをいう。)			LINNE)、マメ科ダイズ( <u>Glycine max MERRILL</u> ) の種子より得られた油脂より、分離して得られた ものである。主成分はレシチンである。		vogotable reordini
162	しらこたん白抽出物 (魚類の精巣から得られた、塩基性タンパク質 を主成分とするものをいう。)	しらこたん白 しらこ分解物 プロタミン	核たん白 しらこ	*	保存料	Milt Protein
	水素			H <sub>2</sub>	製造用剤	Hydrogen
164	ステビア抽出物 (ステビアの葉から抽出して得られた、ステビ	ステビアエキスステビオシド	ステビア ステビア甘味料	*	甘味料	Stevia Extract
	オール配糖体を主成分とするものをいう。) ステビオール配糖体	レバウジオシド ステビオシド	X / C / L 9841	*		Steviol Glycosides
165	  ステビア末	レバウジオシド	ステビア	キク科ステビア( <u>Stevia</u> <u>rebaudiana</u> BERTONI)	甘味料	Powdered stevia
100	(ステビアの葉を粉砕して得られた、ステビ オール配糖体を主成分とするものをいう。)		,,,,,	の葉を、粉末としたものである。主甘味成分はステビオール配糖体(ステビオシド及びレバウジオシド)である。	L 2847	l olidor da dedivid
166	スピルリナ色素 (スピルリナの全藻から得られた、フィコシア ニンを主成分とするものをいう。)	スピルリナ青色素	スピルリナ青	*	着色料	Spirulina Color
167	スフィンゴ脂質 (米ぬかから得られた、スフィンゴシン誘導体 を主成分とするものをいう。)			イネ科イネ(Oryza sativa LINNE)の種子又は小 麦(Irritcum aestivum LINNE)の胚手から得ら れた米ぬかより、室温時〜温時エタノール、含水 エタノール、イソプロピルアルコール、アセト ン、ヘキサン又は酢酸エチルで抽出したものより 得られたものである。主成分はスフィンゴシン誘 導体である。		Sphingolipid
	生石灰			*	製造用剤	Quicklime
169	精油除去ウイキョウ抽出物 (ウイキョウの種子から得られた、グルコシル シナピルアルコールを主成分とするものをい			*	酸化防止剤	Essential Oil Rremoved Fennel Extract
170	フェ/ セイヨウワサビ抽出物 (セイヨウワサビの根から得られた、イソチオ シアナートを主成分とするものをいう。)	ホースラディッシュ抽出 物		*	酸化防止剤	Horseradish Extract
	ゼイン (トウモロコシの種子から得られた、植物性タンパク質を主成分とするものをいう。)	トウモロコシたん白		イネ科トウモロコシ(Zea mays LINNE)の種子を 粉末化したものより、エタノール又はアセトンで 抽出し、精製して得られたものである。主成分は プロラミンに属する植物性タンパク質である。		Zein
172	ゼオライト		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したゼオライトを精製して得られた ものである。主成分は結晶性アルミノケイ酸塩で ちょ	製造用剤	Zeolite
	セージ抽出物 (サルビアの葉から得られた、カルノシン酸及 びフェノール性ジテルペンを主成分とするもの をいう。)			ある。 シソ科サルビア (Salvia officinalis LINNE) の 葉より、水、エタノール又はヘキサンで抽出して 得られたものである。有効成分はフェノール性ジ テルペノイド (ジテルペン) 及びカルノシン酸で ある。	酸化防止剤	Sage extract
174	セピオライト			4000 鉱石セピオライトを、粉砕して得られたものである。主成分はイノケイ酸のマグネシウム塩である。		Sepiolite
175	L-セリン		セリン	*	調味料強化剤	L-Serine
170	セルラーゼ	繊維素分解酵素	カルボヒドラーゼ	*	酵素	Cellulase
1/6						Crude Potassium Chloride

番号	品 名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	品名   粗製海水塩化マグネシウム	別 名 塩化マグネシウム含有物		※ ※	製造用剤	Crude Magnesium Chloride
	(海水から塩化カリウム及び塩化ナトリウムを 析出分離して得られた、塩化マグネシウムを主成分とするものをいう。)					(Sea Water)
179	ソバ柄灰抽出物 (ソバの茎又は葉の灰化物から抽出して得られ たものをいう。)		植物灰抽出物	タデ科ソバ(Fagopyrum esculentum MOENCH.)の 茎又は葉を灰化したものより、熱時水で抽出して 得られたものであって、アルカリ金属及びアルカ リナ類金属を含む。		Buckwheat ash extract
180	ソルバ (ソルバの分泌液から得られた、アミリンアセ タート及びポリイソブレンを主成分とするもの をいう。)			キョウチクトウ科ソルバ (Couma macrocarpa BARB. RODR.) の幹枝から得られたラテックス を、熟時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られ たものである。主成分はアミリンアセタート及び		Sorva Leche caspi
181	ソルビンハ (ソルビンハの分泌液から得られた、アミリン アセタート及びポリイソプレンを主成分とする ものをいう。)	ソルバペケーニヤ		シスポリイソプレンである。 キョウチケトウ科ソルビンハ( <u>Couma utilis</u> MUELL)の幹技より得られたラテックスを、熱時 水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたもので ある。主成分はアミリンアセタート及びシスポリ イソプレンである。		Sorvinha
	ダイズサポニン (ダイズの種子から得られた、サポニンを主成分とするものをいう。)		サポニン	マメ科ダイズ(Glycine max MERRILL)の種子を 粉砕し、水又はエタノールで抽出し、精製して得 られたものである。主成分はサポニン(ソヤサポ ニン等)である。		Soybean saponin
183	タウマチン (タウマトコッカスダニエリの種子から得られ	ソーマチン		*	甘味料	Thaumatin
184	<u>た、タウマチンを主成分とするものをいう。)</u> タウリン (抽出物) (魚類又はほ乳類の臓器又は肉から得られた、 タウリンを主成分とするものをいう。)		タウリン	*	調味料	Taurine (Extract)
185	タマネギ色素 (タマネギのりん茎から得られた、クエルセチ		フラボノイド フラボノイド色素	*	着色料	Onion Color
186	<u>ンを主成分とするものをいう。)</u>  タマリンド色素   (タマリンドの種子から得られた、フラボノイ		<u>野菜色素</u> フラボノイド フラボノイド色素	*	着色料	Tamarind Color
187	<u>ドを主成分とするものをいう。</u> )  タマリンドシードガム   (タマリンドの種子から得られた、多糖類を主	タマリンドガム タマリンド種子多糖類	タマリンド	*	増粘安定剤	Tamarind Seed Gum
188	(タラの種子から得られた、多糖類を主成分と			*	増粘安定剤	Tara Gum
189	<u>するものをいう。)</u> タルク		不溶性鉱物性物質	*	ガムベース	Talc
190	┃ ┃胆汁末 ┃(胆汁から得られた、コール酸及びデソキシ	コール酸 デソキシコール酸		動物の胆汁を、粉末化して得られたものである。 主成分はコール酸及びデソキシコール酸である。	製造用剤 乳化剤	Powdered bile
191	コール酸を主成分とするものをいう。) 単糖・アミノ酸複合物 (アミノ酸と単糖類の混合物を加熱して得られ		糖・アミノ酸複合物	×	酸化防止剤	Amino Acid-Sugar Reaction Product
192	たものをいう。) タンナーゼ			*	酵素	Tannase
	タンニン(抽出物)	タンニン酸(抽出物)	タンニン	*	製造用剤	Tannin (extract)
,,,,	(カキの果実、五倍子、タラ末、没食子又はミモザの樹皮から得られた、タンニン及びタンニン酸を主成分とするものをいう。)		タンニン酸			valiiii (oxel act)
	柿タンニン	柿渋 柿抽出物		カキ科カキ ( <u>Diospyros</u> <u>kaki</u> THUNB.) の実より、搾汁したもの、又は水若しくはエタノールで 抽出して得られたものである。主成分はタンニン		Tannin of persimmon
	   植物タンニン			<u>及びタンニン酸である。</u> ※		Vegetable Tannin
	ミモザタンニン			マメ科ミモザ (Acacia dealbata LINNE) の樹皮 より、水又はエタノールで抽出して得られたもの である。主成分はタンニン及びタンニン酸であ		Tannin of silver wattle
194	   チクル   サポジラの分泌液から得られた、アミリンア   セタート及びポリイソプレンを主成分とするも			3. *	ガムベース	Chicle
105	のをいう。)			N.	製造用剤	Nitrogen
	手ャ 乾留物 (チャの葉を乾留して得られたものをいう。)			N2 ツパキ科チャ( <u>Camellia sinensis</u> 0. KZE.) の葉 より製した茶を、乾留して得られたものである。 有効成分は特定できないが、アミノ酸、カフェイ		Tea dry distillate
197	   チャ抽出物   (チャの葉から得られた、カテキン類を主成分   とするものをいう。)	ウーロンチャ抽出物 紅茶抽出物 緑茶抽出物		<u>ン、タンニン、カテキン類を含む。</u> ※	酸化防止剤 製造用剤	Tea Extract
198	チルテ (チルテの分泌液から得られた、アミリンアセ タート及びポリイソプレンを主成分とするもの をいう。)			トウダイグサ科チルテ( <u>Onidoscolus elasticus</u> LUNDELL.)の幹技より得られたラテックスを、熱 時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたもの である。主成分はアミリンアセタート及びポリイ ソブレンである。		Chilte
199	L-チロシン		L-チロジン チロシン チロジン	- ファレンである。 - ※	調味料 強化剤	L-Tyrosine
200	ツヌー (ツヌーの分泌液から得られた、アミリンアセ タート及びポリイソプレンを主成分とするもの まいう。)			クワ科ツヌー( <u>Castilla fallax</u> COOK) の幹枝よ り得られたラテックスを、脱水したものより得ら れたものである。主成分はアミリンアセタート及 びポリイソプレンである。		Tunu
201	ッヤプリシン (抽出物) (ヒバの幹枝又は根から得られた、ツヤプリシン類を主成分とするものをいう。)	ヒノキチオール (抽出物)	ヒノキチオール	**	保存料	Thujaplicin (Extract) Hinokitiol(Extract)
202	5 -デアミナーゼ			*	酵素	5'-Deaminase
203	低分子ゴム (パラゴムの分泌液を分解して得られた、ポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科バラゴム ( <u>Hevea brasiliensis</u> MUELLARG.) の幹枝より得られるラテックスを、加勢分解して得られたもの、又は酵素分解して得られたものである。主成分はシスポリイソブ	ガムベース	Depolymerized natural rubber
	テオブロミン			レンである。 アオギリ科カカオ( <u>Theobroma cacao</u> LINNE)の 種子、アオギリ科コーラ( <u>Cola acuminata</u> SCHOTT et ENDL.)の種子又はツバキ科チャ ( <u>Camellia sinensis</u> O. KZE.)の葉より、水又 はエタノールで抽出し、分離して得られたもので ある。成分はテオブロミンである。		Theobromine
	デキストラナーゼ		- * 1 * 스 + + + + + + + + + + + + + + + + + +	*	酵素	Dextranase
	デキストラン		ブドウ糖多糖	× 56c 57c 58c	増粘安定剤	Dextran
207	<b></b>			<sup>54</sup> Fe, <sup>56</sup> Fe, <sup>57</sup> Fe, <sup>58</sup> Fe	強化剤 製造用剤	Iron

### 1977年1970年 (1977年) ### 1977年 (1977年) ### 1	番号	品 名		簡略名又は類別名	基原·製法·本質	用途	備考
Page 19 1				+	=		
Part	208				*		Dunallella Garotene
### 1975 1987 1987 1987 1987 1987 1987 1987 1987						2011	
特別の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の							
10   10   10   10   10   10   10   10							
20 日   10   10   10   10   10   10   10				カロテン			
75	209	銅		カロテン色素	<sup>63</sup> Cu. <sup>65</sup> Cu	製造用剤	Copper
少年ませんかっても、10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	210	トウガラシ色素	カプシカム色素	カロチノイド	<u> </u>	着色料	Paprika Color
19		(トウガラシの果実から得られた、カプサンチ	パプリカ色素				Paprika Oleoresin
11   1		ン類を主成分とするものをいう。)					
200   10	211			カプシカム抽出物	*	製造用剤	
12   中国			バブリカ水性抽出物				Extract
1	212	動物性ステロール	コレステロール		*	乳化剤	Cholesterol
20   19-17-7-か   19   19   19   19   19   19   19   1							
10	213				*	酸化防止剤	Tocotrienol
1-13 Temporary   1-	214	d-α-トコフェロール	α-ビタミンE	抽出V. E	*	酸化防止剤	d-α-Tocopherol
Part						強化剤	
### 17-17-21-0-1							
### ディトコフェロール							
# 20							
1-37±0-ル	215	d-γ-トコフェロール	γ-ビタミンE	抽出V. E	*		d-γ-Tocopherol
Part						強化剤	
## 10 - 2 - 1 - 2 - 1 - 1 - 2 - 1 - 1 - 2 - 1 - 1							
### 1972 - 1972 - 1973 - 1974							
トラフェラール   日本の				抽出ドコフェロール 抽出ビタミンE			
3・1-37 = ロール   1	216	d-δ-トコフェロ <del>ー</del> ル	δ-ビタミンE	抽出V. E	*		d-δ-Tocopherol
ドクトル電						1年76月1	
おおしつマンド   日本日本				ビタミンE			
Part							
「トマナの東京から得られた、2日ビンを主成		A =	1-111	抽出ビタミンF	lw.	<b>始</b> 左 del	Tt. O. I
からアイドル素	217		トマトリコビン		*	<b>右</b> 色料	lomato Golor
日本の表示ショー				カロテノイド			
トラガントガル   一次   一次   一次   一次   一次   一次   一次   一				カロテノイド色素			
# 表のとするものをいう。)  #	218	トラガントガム			*	増粘安定剤	Tragacanth Gum
29   トランスケルコンダーゼ							
第二十四十三十四十三十四十三十四十三十四十三十四十三十四十三十四十三十四十三十四十	219				*	酵素	Transglucosidase
22   トレハロース	220	トランスグルタミナーゼ			  *	酵素	Transglutaminase
222   トレハロース   232   トレハロース   233   1					II.		
25							
24   10 コアギー (人口ロアギー (人口ロア (人口口ア (人口口) (人口口ア (人口口) (人口口ア (人口口) (人口) (人							
(ドロコアオイの組みら得られた、多種類を主   株理   株理   株理   株理   株理   株理   株理   株							
25   計画的大人 (検定器の)機能液から得られた。ポリグルタミン酸   計画報告表情的 (検定器の)機能液が (検定器の)機能液が (検定器の)機能液が (検定器の) (ket and	224						101010401
後載度の修養液から得られた、ポリグルタミ   27							
お出来の	225		納豆菌粘質物	ポリグルタミン酸	*		Bacillus Natto Gum
タはパラフェン系及化ナオミの   タはパラフェン系及化大素であ   タイト		ン酸を主成分とするものをいう。)					
22	226	ナフサ	石油ナフサ		石油蒸留物を、精製して得られたものである。成   公はパラフィン系及びナフタレン系炭化水素であ	製造用剤	Petroleum naphtha
コーヒーの様子から得られた、クロロゲン酸   タンポリフェノールを主成分とするものをいう。  一本科子グーゼ   次の作り、100mm   100mm   100					る。		
表しておりフェノールを主成分とするものをいう。	227						Coffee Bean Extract
生コーヒー豆油出物(ベースト品、液体品)   ※   日本   日本   「Coffee Bean Extract (2016)					溶液で抽出して得られたものである。有効成分		
228		う。)			は、クロロゲン酸及びポリフェノールである。		
228		生コーヒー豆抽出物(ペースト品、液体品)			*		Coffee Bean Extract
232	220	+11111111111111111111111111111111111111	ナリンギナーゼ		×	<b>群</b> 事	
230         ボーダッタ (Eius alstrobula politika) の終末と場合とれたきのの終末と場合とれてきるい。 の終末と場合とれてきるいの終末と場合とれてきるい。 の終末と場合とれてきるい。 の終末と見合われでものである。ま成分は下りインスを、動きれて洗浄し、水沢は定温的エタート及びポリイソブレンを主成分とす。 カーティード は、							I .
Can							=
本のものをいう。)		(ニガーグッタの分泌液から得られた、アミリ			DELILE.) の幹枝より得られたラテックスを、熱		3 3
カーラー・							
231					ソプレンである。		
本地画して得られたものである。主成分はセスキテルペン(アプシャチン略)である。   本のでアプシャチン略)である。   本のでアプシャチン略)である。   本のでアプシャチン略)である。   本のでアプシャチン略)である。   本のでアプシャチンの「ない」が関係している。   本のでのである。主成分はセスキテルペン(アプシャチン略)である。   本のでのである。主成分はセスキテルペン(アプシャチンの)である。   本のでのである。主成分はセスキテルペン(アプシャチンの)である。   本のでのである。主成分はセスキテルペン(アプシャチンの)である。   本のでのである。主成分はセスキテルペン(アプシャチンの)である。   本のでのである。主成分はセスキテルペン(アプシャチンの)である。   本のでのである。主成分はセスキテルペン(アプシャチンの)である。   本のでのである。主成分は「ないが」というである。   本のでのである。主成分はセスキテルペン(アプシャチンの)である。   本のでのである。主成分は「ないが」を加える。   本のでのである。主成分は「ないが」を加える。   本のでのである。主成分は「ないが」を加える。   本のでのである。主成分はしているできないのである。   本のである。主成分はしているから、   本のである。主成分は「ないが」を表しているが、自然を表している。   本のである。に対しているから、対しまれるから、対しまれるから、対しまれるから、対しまれるから、対しまれるから、対しまれるから、   本のである。に対しているから、対しまれるから、対しまれるが、自然を表しているから、自然を表してマルトールを含む。   本のである。に対しているが、自然を表しているが、自然を表しているが、自然を表しているから、   本のである。に対しているが、自然を表している。   本のである。に対しているが、自然を表している。に対しているが、自然を表している。   本のである。に対しているが、自然を表しているが、自然を表しているが、自然を表している。   本のである。に対しているのである。に対しているのである。に対しているのである。に対しまれるのである。に対しているのである。   本のである。に対しているのである。に対しないのである。に対したいのである。に対しているのである。に対しているのである。   本のである。に対しているのである。に対しないのである。に対しないのである。に対しないのである。に対しないるのである。   本のである。に対しないのである。   本のでは、本のでは、本のでは、本のでは、本のでは、本のでは、本のでは、本のでは、	231			ニガヨモギ	キク科ニガヨモギ (Artemisia absinthium	苦味料等	Absinth extract
1							
キャロットカロテン	000				ルペン(アブシンチン等)である。		Minkel
(ニンジンの根から得られた、カロテンを主成 分とするものをいう。)       オロテン 抽出カロテン 抽出カロテン 抽出カロテン 抽出カロテン 抽出カロテン 抽出カロテン 抽出カロテン 抽出カロテン 抽出カロテン カロテン色素       オペ科イネ (Oryza sativa LINNE) の米ぬかを脱 製造用剤 脂し、はい煎 たものを、熱時水で抽出後、温時エタノールで多ンパク質を除去したものである。 マメトダイズ (Glycine max MERRILL) の種子を製造用剤 (ダイズの種子から得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)       Roasted rice bran extract         235 ばい煎ダイズ抽出物 (ダイズの種子から得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)       マメトダイズ (Glycine max MERRILL) の種子を製造用剤 脱脂し、ばい煎 したものより、熱時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去して得られた 温時エタノールでタンパク質を除去して得られた。 一般指し、は、取したものより、熱時水で抽出後、温時したものより、熱時水で抽出後、温時したり、一般である。成分としてマルトールを含む。 一般などするものをいう。)       Roasted soybean extract         236 パーオキシダーゼ       ※       酵素       Peroxidase         237 白金       ※       酵素       Platinum         238 パバイン       ※       酵素       Papain         239 パーム油カロテン 主成分とするものをいう。)       がーム油カロテン 抽出カロテン 抽出カロテン カロテンイド カロテンイド カロテンイド カロテンイド カロテンイド カロテンイド カロテンイド カロテノイド カロテム       ※       神田・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	232	ーッグル			<sup>™</sup> NI, <sup>™</sup> NI, <sup>™</sup> NI, <sup>™</sup> NI	<b>製</b> 直用剤	NICKEI
分とするものをいう。)       ニンジンカロチン 抽出カロチン 抽出カロチン 抽出カロテン カロテン色素 カロテノイド色素 カロテノイド色素 カロテノイド色素 カロテノイド色素 カロテン インド色素 カロテン インド色素 カロテン インド色素 カロテン インドルルを主成分とするものをいう。)       イ本科イ本 (Oryza sativa LINNE) の米ぬかを脱製造用剤 脂し、ばい煎したものを、熱時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去したものである。 成分としてマルトールを含む。 成分としてマルトールを含む。 成分としてマルトールを含む。 成分としてマルトールを含む。 成分としてマルトールを含む。 成分としてマルトールを含む。 はい煎したものより、熱時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去して得られた ものである。 成分としてマルトールを含む。 となりをan extract 光脂し、ばい煎したものより、熱時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去して得られた ものである。 成分としてマルトールを含む。 はい煮したものより、熱時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去して得られた ものである。 成分としてマルトールを含む。 は水剤 静素 Papain         236 パーオキシダーゼ       ベルオキシダーゼ       ※       酵素 Papain         237 白金       「パイン ※       酵素 Papain         238 パパイン       ※       酵素 Papain         239 パーム油カロテン 主成分とするものをいう。)       カロチノイド カロチノイド カロチノイド カロチノイド カロチノイド カロチン カロチン カロチン カロテン カロテン カロテンイド カロテノイド カロティイ カロテノイド カロテノイド カロテノイド カロテノイド カロテノイド カロテノイド カロテノイド カロテノイド カロテム カロテム オロース オロス オロス インド カロテム インド カロテム インド カロース インド カロース インド カロテム インダー イン・エース インド カロース イン インド カロース インド カロー	233				*		Carrot Carotene
# 抽出カロチン 抽出カロテン 抽出カロテン 抽出カロテン カロテノイド カロテノイド色素 カロテノイド色素 カロテン を						<b>着色料</b>	
カロテング   カロテング   カロテング   カロテング   カロテング   カロテング   カロテング   カロテング   カロテン色素   イネ科イネ (Oryza sativa LINNE) の米ぬかを脱 製造用剤   Roasted rice bran extract   脂し、ぱい煎したものを、熱時水で抽出後、温時 エタノールでタンパク質を除去したものである。 成分としてマルトールを含む。 マメ科ダイズ (Glycine max MERRILL) の種子を 製造用剤   Roasted soybean extract   ペルオキンダーゼ   ※			抽出カロチン	カロチン色素			
カロテン			抽出カロテン				
カロテン色素				カロテン			
235       マルトールを主成分とするものをいう。)       脂し、ばい煎したものを、熱時水で抽出後、温時 エタノールでタンパク質を除去したものである。成分としてマルトールを含む。       製造用剤 (がイズの種子から得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)       Roasted soybean extract         236       パーオキシダーゼ       ペルオキシダーゼ       ※       酵素       Peroxidase         237       白金       192Pt, 194Pt, 195Pt, 195Pt, 195Pt       製造用剤 Platinum         238       パパイン       ※       酵素       Papain         239       パーム油カロテン (アブラヤシの果実から得られた、カロテンを 主成分とするものをいう。)       カロチノイド カロテノイド色素 カロテノイドカロテン (カロテノイド色素) カロテノイド色素 カロテノイト カロテン (カロ・ア・ロー・ア・ロー・ア・ロー・ア・ロー・ア・ロー・ア・ロー・ア・ロー・ア・	234	ばい前コメヌカ抽出物(米ぬかから得られた		カロテン色素	  イネ科イネ(Oryza sativa   INNF)の尖めかた脳	製造用剤	Roasted rice bran extract
エタノールでタンパク質を除去したものである。					脂し、ばい煎したものを、熱時水で抽出後、温時		
235   ぱい煎ダイズ油出物					エタノールでタンパク質を除去したものである。		
(ダイズの種子から得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)     脱脂し、ぱい煎したものより、熟時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去して得られたものである。成分としてマルトールを含む。       236 パーオキシダーゼ     ※       237 白金     「952Pt, 194Pt, 195Pt, 195Pt 製造用剤 Platinum       238 パパイン     ※       239 (パーム油カロテン (アブラヤシの果実から得られた、カロテンを抽出カロチン 主成分とするものをいう。)     カロチノイド カロテノイド カロテノイド カロテノイド カロテノイド カロテノイド カロテノイド カカロテノイド 色素 カロテノイド カカロテノイド カカロテノイド カカロテノイド カカロテノイド カカロテノイド カカロテノイド 色素 カロテノイド カカロテム 東北 ロース	235				マメ科ダイズ( <u>Glycine</u> <u>max</u> MERRILL)の種子を	製造用剤	Roasted soybean extract
ものである。成分としてマルトールを含む。   1927年、1947年(1947年)   1947年(1947年)   1947年)					脱脂し、ばい煎したものより、熱時水で抽出後、		
236		<b>ルカこするものでい</b> り。/					
192Pt, 194Pt, 195Pt, 196Pt, 196Pt, 196Pt   製造用剤   Platinum     238	236	パーオキシダーゼ	ペルオキシダーゼ			酵麦	Peroxidase
238			770 177 E				
239   パーム油カロテン	237	日金		<u> </u>	<sup>192</sup> Pt, <sup>194</sup> Pt, <sup>195</sup> Pt, <sup>196</sup> Pt, <sup>198</sup> Pt	製造用剤	Platinum
(アブラヤシの果実から得られた、カロテンを 抽出カロチン カロチノイド色素 カロチン カロチンとするものをいう。)	238	パパイン			*	酵素	Papain
(アブラヤシの果実から得られた、カロテンを 抽出カロチン カロチノイド色素 カロチン カロチンとするものをいう。)	239				*		Palm Oil Carotene
カロチン色素 カロテノイド カロテノイド色素 カロテン		(アブラヤシの果実から得られた、カロテンを	抽出カロチン	カロチノイド色素			
カロテノイド カロテノイド色素 カロテン		土风ガと9つものをいう。)					
カロテン				カロテノイド			
240     パーライト     不溶性鉱物性物質     ※     製造用剤     Perlite							
440   ハーフィト       本浴性脈物性物質   ※       要適用剤   Perlite	0.40	·8-=/L		カロテン色素	l v	制生四如	Dorlito
	240	ハー ノ1 ト		か 浴 注 鉱 物 性 物 質	**	<b>妥逗用剤</b>	Lettife

番号	品名		簡略名又は類別名	甘原,制注, ★每	用途	備考
	品 名 パラジウム	別 名		基原·製法·本質  102Pd. 104Pd. 105Pd. 106Pd. 108Pd. 110Pd	用 速 製造用剤	1佣 考 Palladium
	パラフィンワックス	パラフィン		**	ガムベース	Paraffin Wax
		,,,,,			光沢剤	
	パンクレアチン ヒアルロン酸		ムコ多糖	* *	酵素 製造用剤	Pancreatin Hyaluronic Acid
		4.8				-
245	微結晶セルロース (パルプから得られた、結晶セルロースを主成	結晶セルロース	セルロース	*	製造用剤	Microcrystalline Cellulose
246	<u>分とするものをいう。)</u> 微小繊維状セルロース		セルロース	*	増粘安定剤	Microfibrillated Cellulose
	(パルプ又は綿を微小繊維状にして得られた、 セルロースを主成分とするものをいう。)				製造用剤	
247	L-ヒスチジン		ヒスチジン	*	調味料	L-Histidine
248	ビートレッド	アカビート色素	アカビート	*	強化剤 着色料	Beet Red
	<ul><li>(ビートの根から得られた、イソベタニン及び ベタニンを主成分とするものをいう。)</li></ul>		野菜色素			
249	L-ヒドロキシプロリン	L-オキシプロリン	オキシプロリン ヒドロキシプロリン	*	調味料 強化剤	L-Hydroxyproline
250	  ヒマワリ種子抽出物	ヒマワリエキス	ヒマワリ種子	   キク科ヒマワリ( <u>Helianthus</u> <u>annuus</u> LINNE)の		Sunflower seed extract
	(ヒマワリの種子から得られた、イソクロロゲン酸及びクロロゲン酸を主成分とするものをいう。)			種子又は種子の搾油相より、熱時水又は含水エタノールで抽出して得られたものである。有効成分はイソクロロゲン酸及びクロロゲン酸である。		
251	ひる石		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したひる石を、1000℃で焼成し、洗	製造用剤	Vermiculite
				浄した後、乾燥して得られたものである。主成分   はケイ酸塩である。		
252	ファーセレラン (フルセラリアの全藻から得られた、多糖類を 主成分とするものをいう。)			ススカケベニ科フルセラリア (Furcellaria fastigiata HUD.) の全藻より、熱時水又はアルカリ性水溶液で抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	增粘安定剤	Furcellaran
253	ファフィア色素		カロチノイド	酵母 (Phaffia rhodozyma MILLER) の培養液より、室温時アセトン、エタノール、含水エタノー	着色料	Phaffia colour
	(ファフィアの培養液から得られた、アスタキサンチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素	り、至温時/セトジ、エダノール、含水エダノー ル、ヘキサン又はこれらの混合液で抽出し、溶媒 を除去して得られたものである。主色素はアスタ キサンチンである。橙~赤色を呈する。		
254	フィシン	ファイシン		*	酵素	Ficin
	フィターゼ		ホスホヒドロラーゼ	*	酵素	Phytase
256	フィチン酸 (米ぬか又はトウモロコシの種子から得られた、イノシトールヘキサリン酸を主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (Oryza sativa LINNE) の種子より得 られた米ぬか又はイネ科トウモロコシ (Zea mays LINNE) の種子より、室温時水又は酸性水溶液で 抽出し、精製して得られたものである。主成分は イノシトールへキサリン酸である。		Phytic Acid
	フィチン酸(液体品)			*		Phytic Acid (Liquid)
	フィチン酸(粉末品)			*		Phytic Acid (Powder)
257	フィチン(抽出物) (米ぬか又はトウモロコシの種子から得られた、イノシトールへキサリン酸マグネシウムを主成分とするものをいう。)		フィチン	*	製造用剤	Phytin (Extract)
258	フェルラ酸			*	酸化防止剤	Ferulic Acid
259	プクロノリ抽出物 (フクロノリの全藻から得られた、多糖類を主		フクロノリ多糖類 フクロフノリ多糖類	*	増粘安定剤	Fukuronori Extract
260	成分とするものをいう。)		フクロフノリ抽出物		#II VE DO 1/1	Dutana
	ブタン 			石油若しくは天然ガス成分中、n-ブタンの沸点付 近の留分である。		Butane
	ブドウ果皮色素 (アメリカブドウ又はブドウの果皮から得られ た、アントシアニンを主成分とするものをい  う。)	エノシアニン	アントシアニン アントシアニン色素 ブドウ色素	*	着色料	Grape Skin Extract Grape Skin Color
262	ブドウ果皮抽出物 (アメリカブドウ又はブドウの果皮から得られた、ボリフェノールを主成分とするものをいう。)			ブドウ科アメリカブドウ(Vitis labrusea LINNE)又はブドウ科ブドウ(Vitis vinifera LINNE)のうち、生食用又は醸造用ブドウの甲州、シャルドネ若しくはリースリング種の果皮搾 粕より、空温時~微温時エタノルで抽出してあ られたものである。主成分はポリフェノールであ		Grape skin-derived substance
263	ブドウ種子抽出物 (アメリカブドウ又はブドウの種子から得られ た、プロアントシアニジンを主成分とするもの をいう。)		プロアントシアニジン	<del>*</del>	酸化防止剤 製造用剤	Grape Seed Extract
264	ブラジルカンゾウ抽出物 (ブラジルカンゾウの根から得られた、ベリア ンドリンを主成分とするものをいう。)	ペリアンドリン	ブラジルカンゾウ	マメ科ブラジルカンゾウ (Periandra dulcis MART.) の根より、水で抽出したものより得られたものである。甘味成分はペリアンドリンである。		Brazilian licorice extract
265	フルクトシルトランスフェラーゼ			×°	酵素	Fructosyl Transferase
266	プルラナーゼ		アミラーゼ カルボヒドラーゼ	*	酵素	Pullulanase
267	プルラン		MANUEL J-E	*	増粘安定剤	Pullulan
268	プロテアーゼ	たん白分解酵素	1	*	製造用剤 酵素	Protease
269	プロパン		+	ー 石油若しくは天然ガス成分中、n−プロパンの沸点	製造用剤	Propane
270	プロポリス抽出物 (ミツバチの巣から得られた、フラボノイドを 主成分とするものをいう。)			<u>付近の留分である。</u> ミッパチ科ミッパチ ( <u>Apis mellifera</u> LINNE, <u>Apis indica</u> RODOSZKOWSKI) の巣より、エタノー ルで抽出して得られたものである。主成分はフラ		Propolis extract
271	ブロメライン		ブロメリン	ボノイドである。 ※	酵素	Bromelain
	L-プロリン液		プロリン	*	調味料	L-Proline
	L-プロリン			*	強化剤	L-Proline Solution
273	分別レシチン	レシチン分別物			乳化剤	Fractionated legithin
	「(「植物レンチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、スフィンゴミリン、フォスファチジルイノシトール、フォスファチジルエタノールアミン及びフォスファチジルコリンを主成分とするものをいう。)	レシチン		温時~温時メダノール、エタノール、含水エタノール、イソコピルアルコール、イソコピルアルコール、イサン又は酢酸エチルで抽出して得られたものである。主成分は、フォスファチジルエタノールアミン、フォスファチジルイノシトール、スフィンゴミエリンである。		Cephalin Lipoinositol
274	   粉末セルロース   (パルプを分解して得られた、セルロースを主   成分とするものをいう。ただし、「微結晶セル   ロース   よ幹/		セルロース	*	製造用剤	Powdered Cellulose
	<u>ロース」を除く。)</u> 粉末モミガラ (イネのもみ殻から得られた、セルロースを主 成分とするものをいう。)			イネ科イネ( <u>Oryza sativa</u> LINNE)のもみ殼を、 微粉砕して得られたものである。主成分はセル ロースである。		Powdered rice hulls
276	ベカンナッツ色素 (ピーカンの果皮又は渋皮から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)	ピーカンナッツ色素	フラボノイド フラボノイド色素	クルミ科ピーカン(Carva pecan ENGL et GRAEBN)の果皮又は渋皮より、熱時水若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの又は熱時酸性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。褐色を呈する。		Pecan nut colour

番号	品 名		簡略名又は類別名	基原·製法·本質	用途	備考
	品 名 ヘキサン	別 名		**************************************	製造用剤	Hexane
			± 11 ±21 . 10 = 12			
	ペクチナーゼ		カルボヒドラーゼ	*	酵素	Pectinase
279	ペクチン			*	増粘安定剤	Pectin
280	ペクチン分解物		分解ペクチン	*	保存料	Pectin Digests
	(「ペクチン」から得られた、ガラクチュロン 酸を主成分とするものをいう。)					
281	ヘスペリジナーゼ			*	酵素	Hesperidinase
282	ヘスペリジン	ビタミンP		*	強化剤	Hesperidin
283	ベタイン			*	調味料	Betaine
	ベニコウジ黄色素	モナスカス黄色素	紅麹	*	着色料	Monascus Yellow
20.	(ベニコウジカビの培養液から得られた、キサ		紅麹色素		2011	
	ントモナシン類を主成分とするものをいう。)		モナスカス モナスカス色素			
285	ベニコウジ色素	モナスカス色素	紅麹	*	着色料	Monascus Color
	(ベニコウジカビの培養液から得られた、アン カフラビン及びモナスコルブリンを主成分とす		モナスカス			
	るものをいう。)					
286	ベニバナ赤色素 (ベニバナの花から得られた、カルタミンを主	カーサマス赤色素	フラボノイド フラボノイド色素	*	着色料	Carthamus Red
	成分とするものをいう。)		紅花赤			
287	ベニバナ黄色素	カーサマス黄色素	<u>紅花色素</u> フラボノイド	<u> </u>	着色料	Carthamus Yellow
207	(ベニバナの花から得られた、サフラーイエ	カット八異己素	フラボノイド色素	<u></u>	A C 44	oar chamas Terrow
	ロー類を主成分とするものをいう。)		紅花黄 紅花色素			
288	ベネズエラチクル	カプーレ	紅化巴茶	アカテツ科ベネズエラチクル (Manilkara	ガムベース	Venezuelan chicle
	(ベネズエラチクルの分泌液から得られた、ア			williamsii STANDL.) の幹枝より得られるラテッ		
	ミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分 とするものをいう。)			クスを、脱水したものより得られたものである。 主成分はアミリンアセタート及びポリイソプレン		
000				である。	T* ±	D
	ペプシン			*	酵素	Pepsin
	ヘプタン			*	製造用剤	Heptane
	ペプチダーゼ			*	酵素	Peptidase
292	ヘマトコッカス藻色素		カロチノイド	*	着色料	Haematococcus Algae Color
	(ヘマトコッカスの全藻から得られた、アスタ キサンチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド色素 カロテノイド			
000		-0 > 1 11 1 1 1	カロテノイド色素	lw.	=* ±	Howe Sand House
	ヘミセルラーゼ	ペントサナーゼ	カルボヒドラーゼ	*	酵素	Hemicellulase
	へム鉄			*	強化剤	Heme Iron
	ヘリウム			<sup>2</sup> He	製造用剤	Helium
296	ベントナイト		不溶性鉱物性物質	*	製造用剤	Bentonite
297	ホスホジエステラーゼ			*	酵素	Phosphodiesterase
298	ホスホリパーゼ	ホスファチダーゼ		*	酵素	Phospholipase
299	没食子酸	レシチナーゼ		  *	酸化防止剤	Gallic Acid
	ホホバロウ	±±.80 5 7				
300	ボボハロワ (ホホバの果実から得られた、イコセン酸イコ	ホホバワックス		ッゲ科ホホバ ( <u>Simmondsia</u> <u>californica</u> NUTT.) の果実より採油したホホバ脂より、分離して得ら	ガムヘース	Jojoba wax
	セニルを主成分とするものをいう。)			れた高融点ロウ物質である。主成分はイコセン酸		
301	ポリフェノールオキシダーゼ	フェノラーゼ		イコヤニルである。  ※	酵素	Polyphenol Oxidase
	ε-ポリリシン	ε-ポリリジン	ポリリジン	**	保存料	ε-Polylysine
			117722			
303	マイクロクリスタリンワックス	ミクロクリスタリンワッ		*	ガムベース 光沢剤	Microcrystalline Wax
304	マクロホモプシスガム	マクロホモプシス多糖類		*	培粘安定剤	Macrophomopsis Gum
	(マクロホモプシスの培養液から得られた、多 糖類を主成分とするものをいう。)					
305	マスチック			ウルシ科ヨウニュウコウ ( <u>Pistacia</u> <u>lentiscus</u>	ガムベース	Mastic gum
	(ヨウニュウコウの分泌液から得られた、マス			LINNE)の分泌液より、低沸点部を蒸留により除		
	チカジエノン酸を主成分とするものをいう。)			去し、熱時エタノールで抽出し、エタノールを留 去して得られたものである。主構成成分はマスチ		
306	マッサランドバチョコレート			カジエノン酸である。		Massaranduba chocolate
300	マッサランドバチョコレート (マッサランドバチョコレートの分泌液から得			アカテツ科マッサランドバチョコレート (Manilkara solimoesensis GILLY.) の幹枝より	ガムベース	massaranduba chocorate
	られた、アミリンアセタート及びポリイソプレ			得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成		
	ンを主成分とするものをいう。)			分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソプレンである。		
207	- 11 - 2 12 2 2 - 4				1212 -	M
307	マッサランドババラタ (マッサランドババラタの分泌液から得られ			アカテツ科マッサランドババラタ (Manilkara huberi (DUCKE) CHEVAL.) の幹枝より得られた	カムペース	Massaranduba balata
	た、アミリンアセタート及びポリイソプレンを			ラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去		
	主成分とするものをいう。)			して得られたものである。主成分はアミリンアセ タート及びポリイソプレンである。		
308	マリーゴールド色素		カロチノイド	*	着色料	Marigold Color
	(マリーゴールドの花から得られた、キサント フィルを主成分とするものをいう。)		カロチノイド色素 カロテノイド			
			カロテノイド色素			
309	マルトースホスホリラーゼ		マリーゴールド	*	酵素	Maltose Phosphorylase
	` `	00年 伊藤吉	L*			
310	マルトトリオヒドロラーゼ	G3生成酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	*	酵素	Maltotriohydrolase
311	未焼成カルシウム		未焼成Ca		強化剤	Non-calcinated calcium
	(貝殻、真珠の真珠層、造礁サンゴ、骨又は卵 殻を乾燥して得られた、カルシウム塩を主成分					
	とするものをいう。)		日本 11 公. 亡 7	日却去 初苗 乾燥し いナル・マクミレス・		Non coloinstad about
	貝殻未焼成カルシウム		貝カルシウム 貝Ca	貝殻を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたもの   である。主成分は炭酸カルシウムである。		Non-calcinated shell calcium
	骨未焼成カルシウム		骨カルシウム	獣骨又は魚骨を、殺菌、乾燥し、粉末にして得ら		Non-calcinated bone
			骨Ca	れたものである。主成分はリン酸カルシウムであ  る。		calcium
	サンゴ未焼成カルシウム	コーラルカルシウム	コーラルCa	*		Non-calcinated Coral
	真珠層未焼成カルシウム	サンゴカルシウム	サンゴCa 真珠層カルシウム	  ウグイスガイ科アコヤガイ (Pinctada fucata)		Calcium Non-calcinated mother-of-
			真珠層Ca	から得られる真珠の核を除いた真珠層を、殺菌、		pearl layer calcium
				乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分  は炭酸カルシウムである。		
	卵殻未焼成カルシウム		卵殻カルシウム	卵殻を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたもの		Non-calcinated eggshell
312	ミックストコフェロール	ミックスビタミンE	<u>卵殻Ca</u> 抽出V. E	である。主成分は炭酸カルシウムである。	酸化防止剤	calcium Mixed Tocopherols
312	(植物性油脂から得られた、d-α-トコフェロー	- / / / L / - / L	トコフェロール		強化剤	
	ル、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロー		ビタミンE			
	ル及びd-δ-トコフェロールを主成分とするもの をいう。)		V. E ミックスV. E			
			抽出トコフェロール			
313	ミツロウ	オウロウ	抽出ビタミンE	  *	ガムベース	Bees Wax
	(ミツバチの巣から得られた、パルミチン酸ミ	ビースワックス			光沢剤	
<u> </u>	リシルを主成分とするものをいう。)	ベースワックス		1	l	1

またデラサンドラトー。ライルル アンム メーケー・シー・ファンム ス メーケー・ファンム ス メーケー・ファンム ス メーケー・ファンム ス ス イナー・ファンス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス	ボツヤクの分泌液から抽出して得られたもの/5, /5 /5 /5 /5 /5 /5 /5 /5 /5 /5 /5 /5 /5	ムラサキコーン色素 ビタミンK <sub>2</sub> (抽出物)	アントシアニン アントシアニン色素 野菜色素 アントシアニン色素 アントシアニン色素 アントシアニン色素 エラサキヤマイモ野菜色素 ビタミンK V. K <sub>2</sub> ビタミンK V. K <sub>2</sub> V. K <sub>2</sub> V. K <sub>2</sub>	基原・製法・本質  ※  ヤマノイモ科ヤマイモ (Dioscorea alata LINNE) の紫色の塊根より、室温時水又は弱酸性、水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニジンアシルグルコシドである。紫赤色を呈する。  ※  ※  ブトモモ科メラロイカ (Melaleuca alternifolia CHEEL) の葉より、水蒸気器 留により得られたモ	酵素 強化剤 製造用剤	備考 Myrrh Purple Sweet Potato Color Purple Corn Color Purple yam colour  Muramidase Menaquinone (Extract) Vitamin K2 (Extract) Mevalonic Acid
(オレラサンドラト   (イン・)   (イン・)	ドツヤクの分泌液から抽出して得られたもの/シークラサキイモ色素 サツマイモの塊根から得られた、シアニジルフが上ても口の地である。 ショウサキウモロコシ色素 りつモロコシの種子から得られた、シアニジンアシルグルコンドを主成分とするものをから。 シーク・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア	ムラサキコーン色素 ビタミンK <sub>2</sub> (抽出物)	アントシアニン 色素 野菜色素 アントシアニン 色素 アントシアニン色素 アントシアニン色素 メラナシアニン色素 ムラサキヤマイモ野菜色素 ビタミンK <sub>2</sub> ビタミンK V. K <sub>2</sub> メナキノン	※  **  **  **  **  **  **  **  **  **	着色料 着色料 静素 強化剤	Purple Sweet Potato Color  Purple Corn Color  Purple yam colour  Muramidase  Menaquinone (Extract) Vitamin K2 (Extract)
316 ム(アンシュー・ファンス アンス アンス アンス アンス アンス アンス アンス アンス アンス ア	ラサキイモ色素 ナツマイモの塊根から得られた、シアニジンフ ジャンのでは、シャースの ラサキトウモロコシ色素 トウモロコシ色養素 トウモロコシの種子から得られた、シアニジー ラサキヤマイモ色素 ヤマイモの塊根から得られた、シアニジンア レグルコシドを主成分とするものをいう。) ラジャーないである。) ラジャーないでは、カースのは一般では、メリーのでは、メリーのでは、カースのでは、カー	ムラサキコーン色素 ビタミンK <sub>2</sub> (抽出物)	アントシアニン 色素 野菜色素 アントシアニン 色素 アントシアニン色素 アントシアニン色素 メラナシアニン色素 ムラサキヤマイモ野菜色素 ビタミンK <sub>2</sub> ビタミンK V. K <sub>2</sub> メナキノン	※ ヤマノイモ科ヤマイモ (Dioscorea alata LINNE) の紫色の塊根より、室温時水又は弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニジンアシルグルコシドである。紫赤色を呈する。 ※  ※  ※  ※  ※  ※  ※  ※  ※  ※  ※  ※  ※	着色料 蓄色料 酵素 強化剤	Purple Corn Color  Purple yam colour  Muramidase  Menaquinone (Extract)  Vitamin K2 (Extract)
316 ム(ン) カー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ラサキトウモロコシ色素 トウモロコシの種子から得られた、シアニジーニーグルコシドを主成分とするものをいう。 ラサキヤマイモ色素 ヤマイモの塊根から得られた、シアニジンアレグルコシドを主成分とするものをいう。) ラミダーゼートキノン (抽出物) アルトロパクターの培養液から得られた、メインー四を主成分とするものをいう。) グロン放きがある。) フリウチク乾留物をウリウチクの薬を乾留して得られたものをあるものをいう。) フリウチク東の変変を乾留して得られたものをあるものをいう。) フリウチクカカの薬から得られたものをあるものをいう。) フリウチクカカの薬があるものをいう。) フリウチクカカの薬があるものをいう。) フリウチクカカの薬がある場合になるもをレンウチクのを変をを発出して得られたものをある。) フリウチクカカの薬がある。) フリウチクカカの薬がある。) フリウチクカカの薬を乾留して得られたものをある。) フリウチクカカの薬の表皮がら得られたものをある。) フリウチクカカの薬を乾留して得られたものをある。)	ビタミンK <sub>2</sub> (抽出物)	アントシアニン色素 アントシアニン色素 スラサキヤマイモ野菜色素 ムラサキヤマイモ野菜色素 ビタミンK <sub>2</sub> ビタミンK V. K <sub>2</sub> V. K <sub>2</sub> メナキノン	ヤマノイモ科ヤマイモ (Dioscorea alata LINNE) の紫色の塊根より、室温時水又は弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニジンアシルグルコシドである。紫赤色を呈する。 ※  ※  ブトモモ科メラロイカ (Melaleuca alternifolia CHEEL) の葉より、水蒸気蒸留により得られたも	着色料 酵素 強化剤 製造用剤	Purple yam colour  Muramidase  Menaquinone (Extract) Vitamin K2 (Extract)
318 ムラテナイン イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イ	ママイモの塊根から得られた、シアニジンアレグルコシドを主成分とするものをいう。)  ラミダーゼ  トキノン (抽出物) アルトロパクターの培養液から得られた、メトノン-四を主成分とするものをいう。)  マリカ・カの葉から得られた、精油を主成分はあるものをいう。)  フソウチク乾留物  モウソウチクの茎を乾留して得られたものをう。)  フソウチクのを変を乾留して得られたものをう。)  フソウチクカースを変して得られたものをう。)  フソウチクル出物  モウソウチクのを変を表皮から得られた、2.6-8  メトキシー1、4-ベンゾキノンを主成分とするもをいう。)  オチップ  マシバミ又はブナの幹枝を粉砕して得られた	ビタミンK <sub>2</sub> (抽出物)	アントシアニン色素 ムラサキヤマイモ野菜色素 ビタミンK <sub>2</sub> ビタミンK V. K <sub>2</sub> V. K	LINNE)の紫色の塊根より、室温時水又は弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニジンアシルグルコシドである。紫赤色を呈する。 ※  ※  ※  ※  ※  ※  がRelaleuca alternifolia CHEEL)の葉より、水蒸気蒸留により得られたも	酵素 強化剤 製造用剤	Muramidase Menaquinone (Extract) Vitamin K2 (Extract)
320 メナアナ ナイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファ	トキノン (抽出物) アルトロパクターの培養液から得られた、メトノン-四を主成分とするものをいう。) ベロン酸 ラロイカ精油 メラロイカの葉から得られた、精油を主成分 するものをいう。) ウソウチク乾留物 Eウソウチクの茎を乾留して得られたものを う。) フソウチク 抽出物 Eウソウチクの茎の表皮から得られた、2.6- メトキシー1.4-ベンゾキノンを主成分とするも をいう。) オチップ 、シパミ又はブナの幹枝を粉砕して得られた		ビタミンK V. K <sub>2</sub> V. K メナキノン	※ ※ フトモモ科メラロイカ (Melaleuca alternifolia CHEEL) の葉より、水蒸気蒸留により得られたも	強化剤製造用剤	Menaquinone (Extract) Vitamin K2 (Extract)
320 メンランマ ウェーション 321 メンランマ ウェーション 322 モンジンの 木 インの 成 がったう うった マンマンマ 324 木 インの 成 かく うった マンマンマンマン 327 木 で うった マンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマン	アルトロパクターの培養液から得られた、メ トノン-四を主成分とするものをいう。) パロン酸 ラロイカ精油 メラロイカの葉から得られた、精油を主成分 するものをいう。) ラソウチク乾留物 モウソウチクの茎を乾留して得られたものを う。) ラソウチク mat 物 モウソウチクの茎の表皮から得られた、2.6- メトナシー1,4-ペンゾキノンを主成分とするも をいう。) オチップ 、シパミ又はブナの幹枝を粉砕して得られた		ビタミンK V. K <sub>2</sub> V. K メナキノン	※  フトモモ科メラロイカ ( <u>Melaleuca alternifolia</u> CHEEL) の葉より、水蒸気蒸留により得られたも	製造用剤	Vitamin K2 (Extract)
321 メック タイプ	ラロイカ精油 メラロイカの葉から得られた、精油を主成分けるものをいう。)  ウソウチク乾留物  ヒウソウチクの茎を乾留して得られたものを  ウソウチク加出物  ヒウソウチクの茎の表皮から得られた、2.6- メトキシ-1,4-ベンゾキノンを主成分とするも  をいう。)  オチップ  ハシパミ又はブナの幹枝を粉砕して得られた			フトモモ科メラロイカ( <u>Melaleuca</u> <u>alternifolia</u> CHEEL)の葉より、水蒸気蒸留により得られたも		Mevalonic Acid
322 年(い 「いっち」 ウェスタを 村 (いの 族ヤ (う) 「 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	メラロイカの葉から得られた、精油を主成分けるものをいう。)  フソウチク乾留物  モウソウチクの茎を乾留して得られたものを  フソウチク加出物  モウソウチクの茎の表皮から得られた、2.6- メトキシ-1,4-ペンゾキノンを主成分とするも をいう。)  オチップ  ハシパミ又はブナの幹枝を粉砕して得られた		竹乾留物	CHEEL)の葉より、水蒸気蒸留により得られたも	酸化防止剤	
323 モ(ジウ マンマン マンマン マンマン マンマン マンマン スター	Eウソウチクの茎を乾留して得られたものを う。) ウソウチク抽出物 Eウソウチクの茎の表皮から得られた、2.6- メトキシ-1,4-ペンゾキノンを主成分とするも たいう。) オチップ 、シバミ又はブナの幹枝を粉砕して得られた		竹乾留物	のである。成分は精油 (α-テルピネン及びγ-テ   ルピネン等)  である。		Melaleuca oil
324 木(ハの、 大 (	Eウソウチクの茎の表皮から得られた、2.6- メトキシ-1,4-ベンゾキノンを主成分とするも をいう。) オチップ ヽシパミ又はブナの幹枝を粉砕して得られた			イ ネ 科 モ ウ ソ ウ チ ク ( Phyllostachys heterocycla MITF.) の茎をチップ状にしたもの を、滅圧加熱下で乾留したものより得られたもの である。		Mousouchiku dry distillate
( / もの	ハシバミ又はブナの幹枝を粉砕して得られた			イネ 料 モ ウ ソ ウ チ ク ( Phyllostachys heterocycla MITF.) の茎の表皮を、粉砕したも のより、微温時エタノールで抽出して得られたも のである。成分として2.6-ジメトキシ-1.4-ベン ゾチノンを含む。	製造用剤	Mousouchiku extract
326 モク (ハ ルシ 327 木灰ヤ う。		シュペーネ		カバノキ科ハシバミ ( <u>Corylus heterophylla</u> FISCHER var. <u>thunberglii</u> BLUME) 又はプナ科ブ ナ ( <u>Fagus crenata</u> BLUME) の幹枝を熱水殺菌し たものを、粉砕して得られたものである。		Wood chip
(ハ ルミ 327 木灰 (ヤ う。	竹材又は木材を炭化して得られたものをい			イ 木 科 マ ダケ (Phyllostachys bambusoides SIEB. et ZUCC.) 著しくはイネ料モウソウチケ (Phyllostachys heterocycla MITF.) の茎又はカ バノ キ 科シラカ バ (Betula platyphylla SUMAT. var. japonica HARA)、チョウセンマ (Pinus koraiensis SIEB. et ZUCC.)、ブナ科 ウバメガシ (Quercus phylliraeoides) 等の幹枝 又は種子を、炭化して得られたものである。		Charcoal
・ (ヤ う。	ヽゼノキの果実から得られた、グリセリンパ <u>ミタートを主成分とするものをいう。)</u>	日本ロウ	植物ワックス	*	カムベース	Japan Wax
う。 200 <b>ナ</b> ロ	₹ 竹材又は木材を灰化して得られたものをい			ブナ科ブナ( <u>Fagus crenata</u> BLUME)等の幹枝 を、灰化して得られたものである。	製造用剤	Timber ash
	) 灰抽出物 「木灰」から抽出して得られたものをい )			ブナ科ブナ ( <u>Fagus crenata</u> BLUME) 、クスノキ 科クスノキ ( <u>Cinnamomum Camphora</u> SIEB.) 等の 幹校を灰化して得られた灰化物を、精製して得ら れたものである。		Timber ash extract
とす	Eモの分泌液から得られた、多糖類を主成分 するものをいう。)		ピーチガム	バラ科モモ( <u>Prunus persica</u> BATSCH)の幹枝の 樹脂成分を、分離して得られたものである。主成 分は多糖類である。		Peach gum
(+	マモモ抽出物 ヤマモモの果実、樹皮又は葉から抽出して得			*	酸化防止剤	Chinese Bayberry Extract
331 ユッ (コ 全草	<u>れたものをいう。)</u> ッカフォーム抽出物 コウカアラボレセンス又はユッカシジゲラの 草から得られた、サポニンを主成分とするも もいう。)		ユッカフォーム ユッカ・フォーム	*	乳化剤 製造用剤	Yucca Foam Extract
332 ラカ	りンカ抽出物 ラカンカの果実から得られた、モグロシド類	ラカンカエキス	ラカンカ	*	甘味料	Luohanguo Extract
	<u> </u>			*	酵素	Lactoperoxidase
	フトフェリン濃縮物 ま乳類の乳から得られた、ラクトフェリンを		ラクトフェリン	*	製造用剤	Lactoferrin Concentrates
<u>主成</u> 335 ラッ	<u> </u>	ラッカイン酸	ラック	*	着色料	Lac Color
336 ラノ	yカイン酸類を主成分とするものをいう。)	羊毛ロウ		*	ガムベース 光沢剤	Lanolin
た、 ルを	- 高級アルコールとα-ヒドロキシ酸のエステ キ主成分とするものをいう。) ムザンガム		ラムザン	  *	増粘安定剤	Rhamsan Gum
(ア 類を	アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖 *主成分とするものをいう。)	ノー・ノン加ス			-anax Æ위i	amouri ddiii
338 L-ラ	ラムノース		ラムノース	XX	甘味料	L-Rhamnose
( DF	責レシチン 収黄から得られた、レシチンを主成分とする <u>りをいう。)</u> >->	レシチン液 L-リジン	リシン	卵黄より得られた卵黄油より、分離して得られた ものである。主成分はレシチンである。	乳化剤 調味料	Yolk lecithin  L-Lysine
	- -リシン液	L-リジン	リジン	* *	強化剤	L-Lysine Solution
341 リゾ		卵白リゾチーム		*  *	酵素	Lysozyme
342 リバ		脂肪分解酵素	エステラーゼ	*	酵素	Lipase
	ポキシゲナーゼ	リポキシダーゼ	11+1-7	*	酵素	Lipoxygenase
344 D-リ345 流動	J ホース 助パラフィン	ミネラルオイルホワイト	リボース パラフィン	*	甘味料 製造用剤	D-Ribose Liquid Paraffin
346 リン	ンターセルロース		セルロース	アオイ科ワタ( <u>Gossypium</u> <u>hirsutum</u> LINNE)の実	製造用剤	Linter cellulose
分と 347 ルチ	フタの単毛から得られた、セルロースを主成 <u>とするものをいう。)</u> テン酵素分解物 「ルチン(抽出物)」から得られた、イソク		イソクエルシトリン	の単毛を、精製して得られたものである。主成分 はセルロースである。 ※		Enzymatically Decomposed
エル	・ルティ(卅四級) ・ かんだしがた ノリカ		コニギノノド	W	ath /レロナ・L ☆□	Rutin (Extract)
(ア 又は	レシトリンを主成分とするものをいう。)		フラボノイド ルチン アズキ全草抽出物	*	酸化防止剤 着色料	Rutin (Extract)
349 ルテ			エンジュ抽出物ソバ全草抽出物			

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備 考
	品名	<u>別名</u> マンネンタケ抽出物	レイシ	サルノコシカケ目マンネンタケ (Ganoderma		Mannentake extract
330	(マンネンタケの菌糸体若しくは子実体又はその培養液から抽出して得られたものをいう。)	マンインメリ 抽山物	ליוט	lucidum KARST.) の菌糸体若しくは子実体、又はその培養液より、水、エタノール又は二酸化炭素で抽出して得られたものである。		
	レイシ抽出物(子実体)			*		Carpophore Derived Mannentake Extract (Fruiting body)
351	レッチュデバカ (レッチュデバカの分泌液から得られた、アミ リンエステルを主成分とするものをいう。)			クワ科レッチュデバカ (Brosimum utile (H.B.K) PIIT.) の幹枝から得られたラテックスを、熟時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンエステルである。	ガムベース	Leche de vaca
52	レンネット	キモシン レンニン		*	酵素	Rennet
53	L-ロイシン		ロイシン		調味料 強化剤	L-Leucine
54	ログウッド色素 (ログウッドの心材から得られた、ヘマトキシ リンを主成分とするものをいう。)				着色料	Logwood colour
155	ロシディンハ (ロシディンハの分泌液から得られた、アミリ ファセタート及びポリイソプレンを主成分とす るものをいう。)	ロジディンハ		アカテツ科シデロキシロン属 ( <u>Sideroxylon</u> ) の 幹枝より得られたラテックスを、脱水したものよ り得られたものである。主成分はアミリンアセ タート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Rosidinha
356	ロシン (マツの分泌液から得られた、アビエチン酸を 主成分とするものをいう。)	ロジン		*	ガムベース	Rosin
57	ローズマリー抽出物 (マンネンロウの葉又は花から得られた、カル ノシン酸、カルノツール及びロスマノールを主 成分とするものをいう。)	マンネンロウ抽出物		シソ科マンネンロウ(Rosmarinus officinalis LINNE)の葉又は花より、二酸化炭素、温時〜熟 時含水エタノール若しくはエタノールで抽出して 得られたもの、又は温時〜熟時へキサン、メタ ノール若しくは含水メタノールで抽出し、溶媒を 除去して得られたものである。有効成分は、フェ ノール性ジテルペノイド(ロスマノール、カルノ ソール及びカルノシン酸等)である。		Rosemary Extract
	ローズマリー抽出物(水溶性)	マンネンロウ抽出物(水溶性)		*		Rosemary Extract (Water Soluble)
	ローズマリー抽出物(非水溶性)	マンネンロウ抽出物 (非水溶性)		*		Rosemary Extract (Water Insoluble)

<sup>※</sup>食品、添加物等の規格基準(昭和34年厚生省告示第370号)第2添加物の部D成分規格・保存基準各条の規定に従う。

なお、組換えDNA技術によって得られた生物を利用して製造された添加物の場合は、厚生労働大臣が定める安全性審査の手続を経た旨が公表されていなければならない。